

守山まるごと活性化プラン（案）

平成 26 年 3 月策定

市長あいさつ

【調整中】

目 次

第1章	計画の概要	1
1.	計画がめざすもの	1
2.	計画の性格と検討の視点	1
3.	計画の対象範囲と構成	2
4.	プラン策定の背景—活性化に向けた主な課題	3
第2章	計画の策定	4
1.	策定の体制	4
2.	策定の方法	5
第3章	学区別まるごと活性化プラン	6
1.	「自分たちが住むそれぞれの地域を良くしたい」地域の思いを大切に	6
2.	市域を「つなぐ」守山まるごと活性化	73
第4章	計画の実現に向けて	74
1.	各学区での推進方向	74
2.	守山市の支援	エラー! ブックマークが定義されていません。

【調整中】

参考資料

- ・ 全体会議の概要
- ・ 学区別会議の概要 (ニュースレターや実施記録など)

第1章 計画の概要

守山まるごと活性化プランとは何でしょう？

1. 計画がめざすもの

本市は、滋賀県の中央に位置し、野洲川や琵琶湖の自然、伊勢遺跡や中山道等の歴史文化などの蓄積があるまちです。交通や公共施設等の利便性にも恵まれ、市外から多くの人に移り住み人口が順調に増加しています。

まちの暮らしやすさ、魅力をさらに高め、市民一人一人の暮らしを豊かにしていくためには、市全体として取り組むのはもちろんのこと、市内の各地域の発想でまちづくりを進めていくことが大切です。地域が持つ個性を見直し、これを活かして磨きあげ、それぞれの地域が光ることで、本市全体を大きく輝かせることができます。そして、この取り組みには、地域の人々が自らの地域のことを考え行動していくという姿勢でのぞむことが大切です。

この計画は、地域にある歴史、自然、生活などの様々な資源～たからもの～を活かすこと、「ないもの」ねだりではなく「あるもの」を活かすことを基本に、各学区で地域課題の解決と魅力的な地域の創造に取り組み、活性化を実現していくための指針として策定するものです。地域と行政が連携して計画を考え具体化させていく中で、まちへの「愛着と誇り」の醸成、人とひとの絆や元気な地域コミュニティの活性化を実現し、「住みやすさ日本一のまち守山」の実現をめざしていくものです。

2. 計画の性格と検討の視点

(1) 性格

この計画は、地域資源を活かしながら地域が主体となって進める、地域活性化の取り組みの指針として策定するものであり、次のような性格を持ちます。

- 自治会や地域の人々などが主体的に地域のまちづくりを進めていく上で、共有し活用する基本的指針となるもの。
- 地域が主体となり行政と連携してプランを策定するとともに、その実現についても地域と行政が連携して行うもの。
- プランに示された取り組みは、市の各計画等との整合も図りながら、順次事業化していくもの。

(2) 検討の視点

目的を踏まえて、計画の検討にあたっては、次のような視点を重視しました。

- 地域資源の掘り起こしや活性化策は、「守山ならではの」、「地域ならではの」という地域の個性を大切に、検討を深めます。
- 老若男女・多様な人々の誇りとなることを意識するとともに、子孫の世代、50年後・100年後までを見据えた活性化策を盛り込みます。
- 既存の資源や施設の活用による活性化を図るものであり、新たな施設設置（いわゆるハコモノ整備）は原則として行わないものとします。

3. 計画の対象範囲と構成

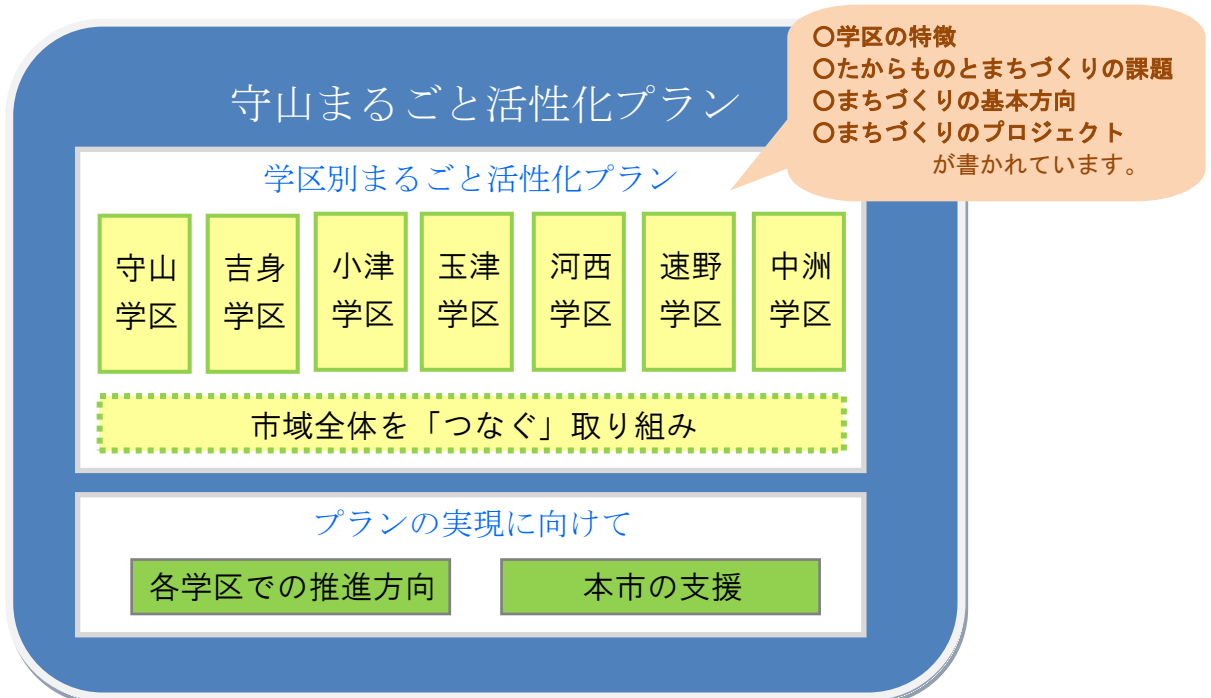
(1) 対象範囲

計画の対象とする地域は本市全域とし、具体的な取り組みについては、各学区の区域ごとに策定します。計画の期間は、主な取り組みについては概ね5年～10年での実現をめざし、その他の取り組みについては、具体的な期間は設定せず、各学区での息の長い取り組みで実現させていくこととします。



(2) 構成

この計画は、各学区の活性化の基本的な考え方と具体策を示した「学区別まるごと活性化プラン」と、プロジェクトを実現するための方向を示した「プランの実現に向けて」で構成しています。



4. プラン策定の背景—活性化に向けた主な課題

地域資源を活かしてまちを活性化させ、誇りと愛着のあるまちをめざすという計画づくりの趣旨にあって、本市全体を見たときに、次のような課題に対応していくことが求められます。

① 少子・高齢化、人口増加への対応

本市は、人口が伸び続けている全国でも数少ない地域です。その一方で、少子・高齢化や小規模世帯の増加が進んでいます。このような状況に対して、人口増加の受け皿となる土地の利用を計画的に行うとともに、人口構成の変化を踏まえた暮らしやコミュニティづくりを進めることが求められます。

② 市街化調整区域におけるコミュニティの維持・向上

全市的に見れば人口が増加するなかで、市の中央部に広がる市街化調整区域の地域（中部田園地域）では人口が減少し、同時に少子・高齢化も進み、地域活動等にも影響が出始めています。既存集落に人口を定着させ若者を呼び戻して、地域の活力やコミュニティの維持・向上を図ることが求められます。

③ 自然的・歴史文化的環境の保全・活用

野洲川や琵琶湖岸等の水辺の自然、三上山や比叡山の眺望、下之郷遺跡や伊勢遺跡、中山道守山宿等の歴史的文化的資源など、本市は自然と歴史文化環境に恵まれたまちです。しかし、都市開発の進展や生活・産業活動の活発化などにより、一部でまちの姿が変わりつつあります。先人から受け継がれてきた自然的・歴史文化的環境を保全しながら、これらを豊かな暮らしや文化の醸成、地域の魅力づくりなどへと活用していくことが求められます。

④ 市内外の人が交流する機能の充実・強化

豊かな自然・歴史文化環境に加えて、琵琶湖岸の文化・観光リゾート施設、市民交流ゾーンの市民ホールや市民運動公園等、本市には人が集まり楽しみ交流することのできる施設・空間が多くあります。これらを結び活用して、市民および市外からの来訪者が多様な交流活動を行う憩いの場としていくことが求められます。

第2章 計画の策定

地域の人々の手でつくりました

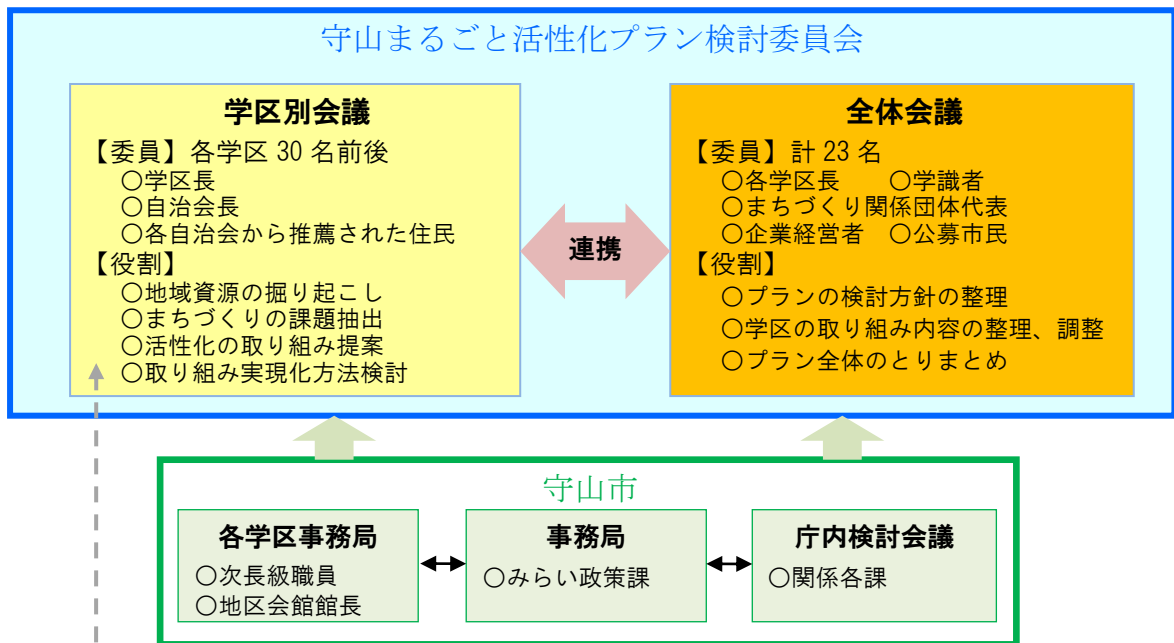
1. 策定の体制

計画の策定は、地域の人々を主体とする検討組織「守山まるごと活性化プラン検討委員会」を立ち上げ、そのなかに設置した「学区別会議」および「全体会議」での検討によって進めました。

学区別会議 は それぞれの地域の人々で構成し、住民の視点で地域資源や活性化の取り組みについて検討する場です。

全体会議 は 各学区別会議の代表、学識者、まちづくり団体代表等で構成し、全市的な視点から各学区の取り組みの調整やプラン全体について検討する場です。

本市 は 円滑で効果的なプランの検討から実現までを支援するため、学区別会議に職員を配置するとともに、庁内の関係部署による会議を設置し、各分野の行政施策との調整等を図ります。



各学区の住民・自治会

学区	自治会
守山	今宿、泉町、本町、梅田町、勝部、焰魔堂、千代、阿村、伊勢、二町、古高、大門、横江、弥生の里、大鳥、サムズ守山
吉身	元町、下之郷、吉身西町、吉身中町、吉身東町、岡、立入、浮気、グランドメゾン守山、レックス式番館
小津	金森、三宅、大林、欲賀、森川原、山賀、杉江、三宅稲葉、金森山柿
玉津	赤野井、矢島、石田、十二里
河西	小島、阿比留、播磨田、布施野、今市、荒見、笠原、中、川田、喜多、田中、川辺、川中、河西ニュータウン、河西ハイム、ラフィーネ守山
速野	開発、大曲、木浜、今浜、美崎、水保、中野、中野小林、北川ニュータウン、ネオ・ペラヴィータ守山
中洲	新庄、服部、立田、幸津川、小浜

2. 策定の方法

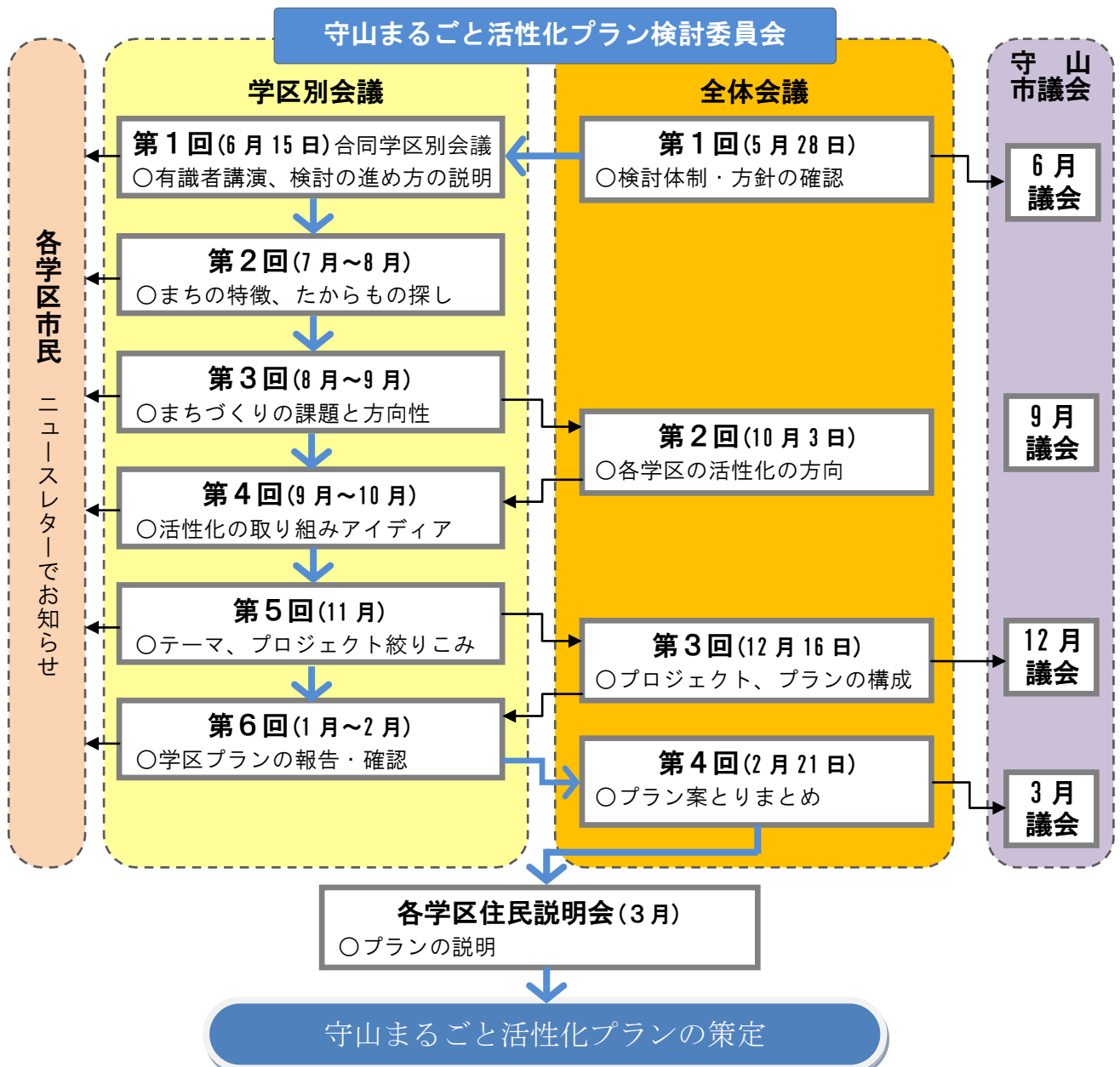
計画の検討は、各学区で6回ずつ開催した学区別会議での意見交換を中心に行い、全体会議で調整等を加えるとともに、検討経過を地域の人々や市議会に周知・報告し、まちに関わる多くの皆さんの確認を得ながら策定しました。

学区別会議では 各回のテーマに沿って自由な意見交換(ワークショップ方式)を行い、委員の知恵やアイデアを引き出すとともに、検討結果の共有と合意形成を図りました。

全体会議では 各学区での検討成果に基づいて学区間の調整やアドバイスをを行うとともに、学区からの提案をとりまとめてプラン案の作成を行いました。

各学区の市民へは 検討経過概要をまとめたニュースレター(市ホームページ)で随時情報提供するとともに、プランの最終案を各学区地域説明会で説明し意見を収集しました。

本市議会へは 随時検討経過・成果を報告し、市議会としての確認を得ています。



第3章 学区別まるごと活性化プラン

各学区がめざすまちづくりプラン

1. 「自分たちが住むそれぞれの地域を良くしたい」地域の思いを大切に

「学区別まるごと活性化プラン」は、「自分たちが住むそれぞれの地域を良くしたい」「まちを良くしたい」との地域の思いを込めて、策定しました。

■学区別まるごと活性化プランのポイント

point1 学区のたからものや課題の明確化

Point2 学区の活性化の方向（テーマ）の明確化

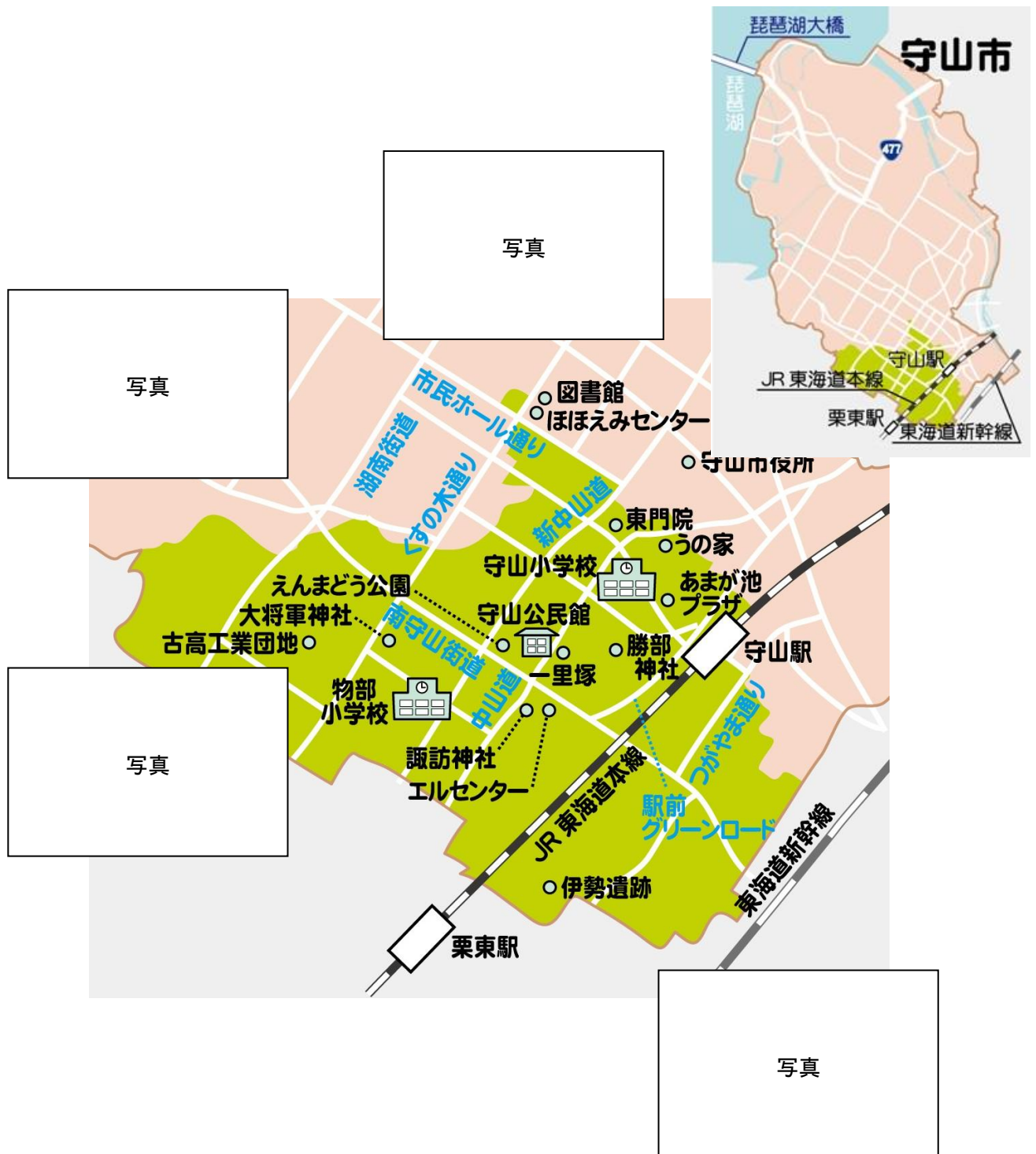
Point3 学区を活性化するプロジェクトを5つ程度に絞り込み

Point4 プロジェクトに位置づけた取り組みの実施主体を明確化

Point5 5年程度での具体化をするものを「まず、はじめに進めていく取り組み」として取りまとめ、優先して事業展開を推進

守山学区

まるごと活性化プラン



守山学区はこんなまちです

■位置

○本市の南端に位置する守山学区は、学区の南半分が栗東市に接しています。地域内をJR琵琶湖線が南北に走り、中心には守山駅があります。本市に隣接する栗東駅や名神高速道路の栗東インターにも近く、交通の便が良い地域です。

○学区の大部分が市街化区域であり、市の中心市街地にあたります。京阪神のベッドタウンとして発展を続ける、本市でもとりわけ人口が増加している地域です。

■成り立ち

○伊勢遺跡が物語るように、古代には政治や文化の発信拠点として歴史の表舞台にありました。

○学区の中央を中山道が通り、江戸時代には守山宿が置かれ「京発ち守山泊まり」として古くから交通の要衝として賑ったことから、多くの文化財が点在し、旧中山道沿いには宿場町の佇まいが残っています。織田信長、古高俊太郎*等の歴史的人物にかかわる伝承地や旧跡、勝部の火祭りや古高鼓踊り等の伝統行事なども長く保存されています。

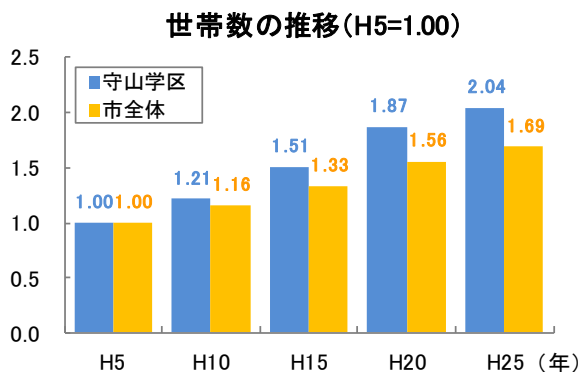
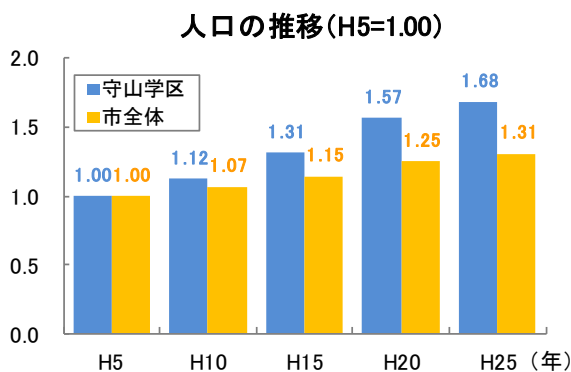
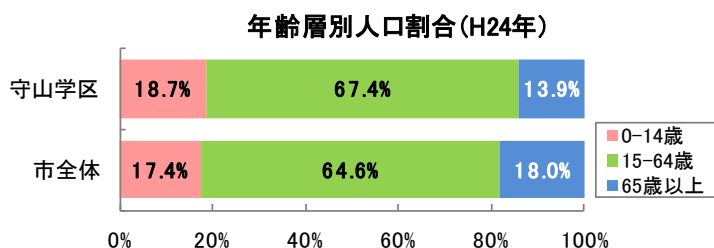
○明治時代には東海道本線守山駅が設置され、昭和初期の栗太郡物部村と野洲郡守山村の合併後は都市化が進み、現在でも戸建住宅やマンションが増えています。また、市内唯一の大規模工業団地である古高工業団地のほかJR東側にも大規模工場が立地しています。

*古高俊太郎…江戸時代末期の勤皇の志士で、古くからの地元の名士・古高一族の出身です。「池田屋事件」(1864)で新選組に捕らわれ、後に惨殺されました。

■人の動き

○人口は24,260人(平成25年)で、市全体の31%を占めます。平成5年から比較すると、人口は約1.7倍、世帯数は約2倍と市全体と比べても大きく増加しています。

○年齢別にみると、65歳以上は約14%と少なく0～14歳が約19%で、市全体と比べると若い世代が多くなっています。



地域のたからもの

守山学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■駅に近く生活に便利で、多くの人が集まる地域です

○駅に近いので交通の便が良く、また、中心市街地であるため、公共施設や商業施設も多く、生活するのに便利な地域になっています。

○火祭りや鼓踊り等の伝統的な祭りだけでなく、夏祭り等の新しいイベントも多く開催されるなど、市内だけでなく、市外からも人も集まる地域となっています。

○市内唯一の大規模工業団地である古高工業団地のほかJR東側にも大規模工場が立地し、工業と住宅が共存しています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■人口が増加し、若い世代が増えています

○マンションや宅地の開発が進み、子どもや子育て世代が増えています。

○小学校が2つあるほか、子育てサロンや子ども見守りなどの地域活動が盛んで、子育て環境が充実しています。

○自治会加入率が高く、まちを綺麗にする活動や安心・安全の活動等地域の人々が主体となって取り組む地域活動が盛んに行われています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■街道文化や神社仏閣、遺跡など歴史遺産が豊富にあります

○伊勢遺跡等の古代の遺跡があるほか、県内に唯一残る一里塚や古い町並み等中山道関連の資源が豊富に存在します。

○各在所に寺があると言われるように、由緒ある神社仏閣が地域内に点在し、身近にある歴史的なたからものが地域の人々の愛着や誇りにつながっています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■ホタルや水など身近な自然が大切にされています

○地域の中を多くの河川がめぐり、きれいな水の流れとまちなかで楽しめるホタルを地域の人々が大切に守っています。

○神社仏閣境内の緑等の自然も多く、四季ごとの変化が感じられる地域の人々の憩いの場にもなっています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

現在のまちの課題

一方で、守山学区には、人口増加に伴う、様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していく必要があります。

■人のつながりが希薄化し、自治会の運営が難しくなっています

- 子育て世代を中心に転入者も多く、人口は増加傾向にあります。一方で、この世代の多くはライフスタイルの違いから、旧来からの地域の人々との交流の機会も少なく、地域への関心も高いことから、まちづくりへの関心に違いが生じています。
- 仕事や子育てなどに忙しい若い世代の自治会活動への参加が少なくなっています。また、自治会の担い手の高齢化が進んでいることから、旧来どおりの自治会運営では年々立ち行かなくなってきており、負担の大きい神社仏閣や伝統行事の維持も難しくなっています。

■急激なまちの変化への対応が遅れています

- 駅前にはマンションが立ち並び、戸建て住宅の開発が急激に進んだことで、一部の古い町並みが消滅するなど、歴史あるまちの景観が失われつつあります。
- 自動車交通の増加により、渋滞が頻繁に発生し、生活道路にも自動車が流入しています。
- 市街化区域による都市化で農業が衰退し、のどかな田園風景が失われてきています。

■JR 東側にも活動拠点が必要です

- JR 琵琶湖線で学区が東西に分かれています。東側には市民が集い活動できるような拠点がありません。高齢者や子育て世代にはJRを渡っての活動もなかなか厳しいため、東側にもさまざまな世代の市民が利用できる拠点をつくることが検討課題となっています。

■豊富な歴史資源が、上手く活かされていません

- 伊勢遺跡や中山道関連資源等、豊富にある市民が誇れる資源が上手く活かされていません。目玉となる食の開発や積極的なPR、情報提供により、観光の活性化につなげることが求められます。
- 地域の歴史や文化を知らない地域の人々も多く、地域への愛着を深め、まちの将来を担う人材を育成するためにも、まずは地域の人々がこれらを知ることから始めていく必要があります。

■身近な自然やホタルを守っていく必要があります

- 市街地開発や都市活動の活発化にも対応しながら、身近なことからである河川の水やホタルを今後も守っていく必要があります。

守山学区活性化の基本方向

守山学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、おおよそ5年先のめざすべき守山学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取り組みの方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

まちづくりのテーマ

人がつながり、自然と歴史を大切にすまち

守山学区は自治会の加入率も高く、伝統行事や自治会活動を通じた住民主体の地域活動が盛んな地域です。しかし、若い世代を中心とした急激な人口増加などにより、地域への愛着や近所づきあいが薄れ、旧住民の高齢化も加わって、これまでの自治会活動や伝統行事の維持が年々難しくなっています。

まちの活性化のためには、誰もが地域づくりに関わることのできる仕組みづくりが必要です。そのために、地域における人のつながりを見直し、身近な自然や伊勢遺跡等の豊富な歴史資源を活かしながら、誰もが無理なく参加できるような取り組みを進めていきます。

<取り組みの方針>

- 【方針1】 新旧住民の融合による「人」を中心としたまちづくり
- 【方針2】 伊勢遺跡や伝統文化など地域の魅力を活かした観光の活性化
- 【方針3】 きれいな水やホタルなど身近な自然の保全
- 【方針4】 将来を見据えた計画的なまちづくり

<まちづくりのプロジェクト>

- 水とホタルから輝くプロジェクト
- JR東側活性化プロジェクト
- 守山の歴史・伝統文化再発見プロジェクト
- 自治会魅力向上プロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取り組み方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

※ **地域**とは、学区や自治会の住民、市民活動団体のこと。

A 自治会魅力向上プロジェクト

年々運営が難しくなっている自治会のあり方や活動内容を見直し、地域内で連携することで、誰もが無理なく参加できる自治会活動づくりを進めます。また、子育て世代や高齢世代においても人のつながりが希薄になっていることから、高齢者をはじめとする地域のマンパワーを活かした子育て支援や安全・安心活動の仕組みをつくりまします。

取り組み1 自治会運営・地域連携体制の見直し

- 自治会を考える会（仮称）を立ち上げ、自治会の運営方法の改善や地域連携体制（学区における取り組み内容等）の見直し **ソフト** **地域**
- 自治会活動の横断化と連携 **ソフト** **地域**

取り組み2 誰もが参加できる自治会活動づくり

- 新しく転入してこられた地域の人々に自治会における活動等について情報発信し、自治会への周知と理解を促進 **ソフト** **地域**
- 子ども同士のつながりから親世代へと、人のつながりを拡大し、共助の取り組みやまちづくりへの参加につなげる方法の研究と実践（自治会活動参加のきっかけづくり） **ソフト** **地域**

取り組み3 地域による子育て支援

- 子育て環境づくりで、守山学区を「子育て推進地域」に指定 **ソフト** **行政**
- 学校では教えてくれない地域のことや言い伝え等を地域の子どもたちに教える寺子屋の復活 **ソフト** **地域**

取り組み4 安全・安心活動の強化

- 命のバトン制度の普及など地域の人々によるセーフティネットの構築 **ソフト** **地域**
- スクールガードやパトロールの強化 **ソフト** **地域**
- 通学路等における危険な箇所等について、地域の人々の目線による点検と対策 **ソフト+ハード** **地域+行政**

B 守山の歴史・伝統文化再発見プロジェクト

豊富にある歴史資源や伝統文化を活用するために、まずは、地域の人々が地域のたからものを知ることから始め、愛着を持つための仕組みを検討します。また、地域内だけでなく地域外からも多くの人に来てもらうことで交流を生み出し、地域の魅力向上と活性化を進めます。

取り組み1 伊勢遺跡を活用した「わがまち」への誇りや愛郷心の醸成

- 建物の復元とアクセス道路の整備（区画整理事業の活用も検討） **ハード** **地域+行政**
- 地域の人々が学区の歴史や伝統文化を知る機会づくり **ソフト** **地域**
- 市内学校での地元の歴史学習の推進 **ソフト** **行政**
- 伊勢遺跡、中山道、卑弥呼の積極的な市外への情報発信（認知度を高める） **ソフト** **地域**

取り組み2 歴史資産や伝統行事の活用・情報発信

- 宿場町や歴史的な風情を意識した景観づくりやイベントを計画 **ソフト** **地域**
- 火祭り等の無形文化財の継承支援のために、祭りの小道具類を保管展示するとともに見学者に案内や説明する常設展示を検討 **ハード** **行政**
- 中山道周辺の古民家や歴史的な景観を守る制度の効果的な運用 **ソフト** **地域+行政**

取り組み3 中山道案内ボランティアの向上

- 中山道案内ボランティアの拡充 **ソフト** **地域**
- もてなす意識、サービスのさらなる向上、案内範囲の拡大等への挑戦 **ソフト** **地域**

C JR東側活性化プロジェクト

JR東側にコミュニティ活動の拠点がないことから、地域の人々のまちづくりや意識づくりの拠点となる場所の整備を進めるほか、工場と住宅の共存を活かして、工場と連携したまちづくりを進めます。また、伊勢遺跡を有効に活用しながら地域の人々による東西の交流を図ります。

取り組み1 活動拠点の整備

- 高齢者や子育て世代、若者などが集い、まちづくりへの関心（意識）や関わりのかっかけの拠点となる場所づくり（空家や企業の施設の活用などを研究） **ハード** **行政**

取り組み2 伊勢遺跡を活用した東西の交流

- 伊勢遺跡を有効活用し、隣接する周辺地域を巻き込んだ交流事業などを実施 **ソフト** **地域**
- 伊勢遺跡の保存整備に関する施設整備の際にも周辺地域を巻き込む（「取り組み1 活動拠点の整備」についても配慮） **ハード** **地域+行政**

取り組み3 地元企業（工場）と連携したまちづくりの実施

- 地元の工場と連携した防災訓練等のまちづくり活動の実施 **ソフト** **地域**

D 水とホテルから輝くプロジェクト

まちなかを河川がめぐりホテルが舞うという環境を守っていくため、地域が一体となって保全・保護する活動を展開します。また、水とホテルを中心に、高齢者から子どもまで誰もが参加できるよう工夫した活動を展開することで、より多くの人々の地域への関心を高め、地域の人々同士の交流を図ります。

取り組み1 水とホテルを中心としたまちづくり活動

- 地域の人々の地道なボランティア活動を知ることにより、地域の水や自然、自分たちのまちを守る意識を醸成 **ソフト** **地域**
- 水に親しむことを意識したイベントや活動の実施（魚釣り、美化活動、生態系維持活動等） **ソフト** **地域**

取り組み2 「ホテルール」の作成（ホテル保護、水環境保全のためのルールづくり）

- ホテル保護・水環境保全のためのルールづくり（タバコ喫煙の規制や除草剤散布等の規制など） **ソフト** **地域+行政**
- 草刈りや河川清掃などの自治会での活動時期の調整 **ソフト** **地域**
- 小学校や子ども会でホテルの生態を学習し、ホテルを通じてゴミを捨てない意識・行動の動機づけ **ソフト** **行政**

- ホタルの森資料館の協力を得て、上記の内容を盛り込んだ「ホタルール」を取りまとめ広く発信 **ソフト** **地域+行政**

取り組み3 ホタル保護や水環境保全に対する積極的な意識醸成

- ホタル条例について地域の人々へ情報発信 **ソフト** **行政**

守山学区活性化の実現に向けて

守山学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】 ※ 地域 とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと。
A. 自治会魅力向上プロジェクト	地域内の組織として自治会を考える会（仮称）を立ち上げ、自治会の運営方法や地域連携体制の見直しについて検討します。 ・自治会を考える会の立上げ ソフト 地域 ・自治会運営方法、取り組み内容等の見直し ソフト 地域 ・課題の要因分析(学区の役割、行政の改善点、自治会で努力すべき事項など) ソフト 地域
B. 守山の歴史・伝統文化再発見プロジェクト	伊勢遺跡や中山道等の歴史資源の活用を学区の重要課題と位置づけ、それぞれの周辺地域の人々が中心となって推進します。 ・散策ルートの設定 ソフト 地域 ・伊勢遺跡周辺地域等における新たなまちづくりの展開策の取りまとめ ソフト 地域+行政 ・中山道や火祭り等の地域資源を活用したイベントなどの実施 ソフト 地域 ・地域の人々が歴史や伝統文化を学ぶ機会をつくる ソフト 地域 ・文化財の常設展示、情報発信、史跡、施設整備 ハード 行政
C. JR東側活性化プロジェクト	伊勢遺跡を活用したまちづくりや地元工場との連携、空家などを活用したまちづくりの展開を検討します。 ・交流や地域活動の場づくり ソフト+ハード 地域+行政
D. 水とホタルから輝くプロジェクト	各自治会でホタル保護に関する取り組みを実施します。また地域の子どもたち等を対象とした水に親しむ活動を実施し、美しい水環境の保全意識の醸成に取り組みます。 ・既存組織と併せて地域の人々や公募による検討グループを結成 ソフト 地域 ・各自治会や小学校等におけるホタル学習会や環境保全活動の実施 ソフト 行政 ・ホタル保護、水環境保全、タバコ喫煙規制、除草散布規制等のルールづくり(ほたルール) ソフト 地域+行政
全 般 行政	地域と行政の協働のもと、プラン（プロジェクト）の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組みます。 ・地区会館とともに連携した支援(調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援(まずは既存制度を活用)) ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘案し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有(隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進)

吉身学区

まるごと活性化プラン

写真



写真

写真

写真

吉身学区はこんなまちです

■位置

- 吉身学区は、JR琵琶湖線を挟んだ東西に長い学区です。JR東側の地域は、野洲川を挟んで野洲市に、また南側は栗東市に隣接しています。
- 学区全体がほぼ市街化区域であり、地域内を南北に琵琶湖大橋取付道路が、東西に中山道が通っています。街並みは、琵琶湖大橋取付道路沿いの商業地域、新しく高層の住宅が建設された地域、中山道沿いの古いまちの3地域が混在しています。

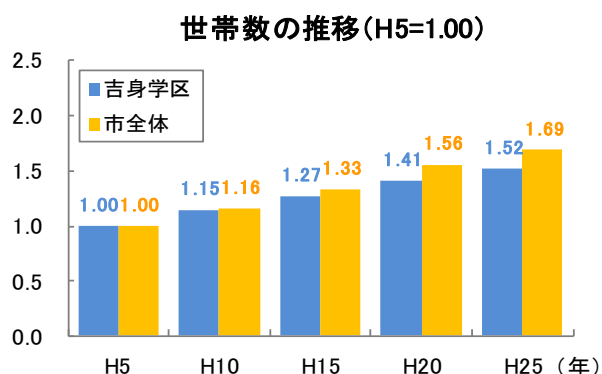
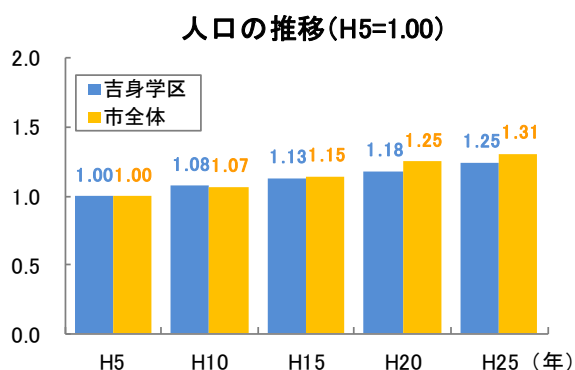
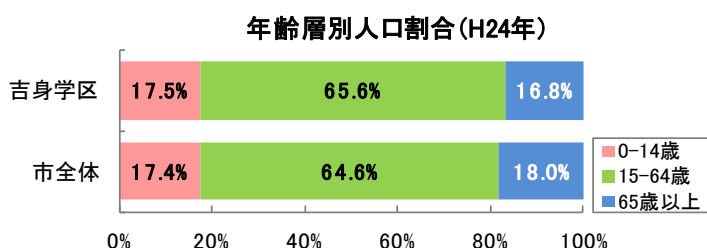
■成り立ち

- 吉身は「吉水」に通じ、かつては高くなだらかな丘があり湧水の豊富な地域として、「日本書紀」にも「醴泉」と益須寺の名が現れる古い歴史をもつ地域です。
- また、江戸時代には中山道・守山宿の加宿[※]として繁栄したところで、古い町並みや由緒ある神社仏閣からも、当時の面影を見ることができます。
- 高層の住宅が建ち並ぶ都会的な街並みの中に、中山道沿いでは旧街道の雰囲気や、野洲川をはじめ地域を流れる河川沿いの四季折々の自然豊かな風景なども楽しめる、新旧の良さが溶け込んだ混在型の学区となっています。
- 学区の西端には、弥生時代の巨大環豪集落で国指定史跡である下之郷遺跡があり、古代から人々が暮らしやすい地域であったことがわかります。

※加宿（かしゆく）：江戸時代の街道で、宿駅に対して人馬の提供を行った隣接する村のこと。

■人の動き

- 人口は16,458人（平成25年）で、市全体の21%を占めます。全市人口と同様に、吉身学区はこの20年間で約25%増と、年々増加しています。
- 年齢別にみると、0～14歳が約18%、65歳以上は約17%であり、市全体とほぼ同じ傾向にあります。
- 1世帯あたりの人口は2.6人で、20年間で3.2人から0.6人減少し、核家族化やひとり暮らしの家庭が増えていることを物語っています。



地域のたからもの

吉身学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■ホタルや水など自然を残したまちです

- 守山川、吉身川、伊勢戸川、目田川、石田川、宮城川、丹堂川等のまちをめぐる河川、立入水源地の湧き水など、生活に密着した水資源があります。
- 豊富な水資源により、まちなかでホタルを見ることができます。また、ハリヨの再生にも取り組んできました。
- 水辺周辺には、桜並木や藤などが見られ、四季折々の季節感が感じられる環境にあります。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■中山道関連の街道文化や神社仏閣、遺跡など歴史遺産が豊富です

- 中山道にまつわる史跡、新川神社や東福寺、慈眼寺、馬路石邊神社をはじめとする神社仏閣、祭りなど歴史ある地域資源が数多く残っており、日常生活において歴史を身近に感じられる環境にあります。
- 住吉神社の火祭り、馬路石邊神社の豊年祭りは伝統行事として有名で、多くの観光客が訪れます。
- 弥生時代の巨大環濠集落として著名な下之郷遺跡をはじめ、吉身西遺跡、寺山古墳等多くの遺跡が残っており、体験学習や地域活動の場として活用されています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■公園や広場などの人が集まる施設が充実しています

- ふれあい公園や立入公園など、様々な特徴を持った公園があり、それぞれの地域の人々に親しまれています。
- 河川沿いには、自転車道や河川敷公園、立入河川広場などが整備され、日々の生活で水とのふれあいができる環境にあります。

■人がつながる活動が行われています

- 守山駅（東口）の駅前公園噴水や地域内の公園、駅前の宿泊施設横のグラウンド、地域内の小学校のグラウンド等、人が集まる施設が多く集積しています。
- 歴史ウォークや子どもみこし、歩こう会、バーベキュー大会等地域の人々によるの地域活動が活発に行われています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

現在のまちの課題

吉身学区は、人口増加傾向にあるものの、一方で、核家族化や高齢化が進むなど様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していく必要があります。

■住宅開発により自然や広場などが減少しています

○住宅開発により、竹藪などの緑地や子どもの遊び場である空き地などが減少しています。また、三上山の見晴らしが悪くなるなど、のどかな風景がみられなくなっています。

■JRにより地域が分かれているほか、交流の場が不足しています

○JR琵琶湖線により地域が分けられ、東西を行き来する通路が限られています。
○人口が増加していることから、自治会館等、地域で人が集まり交流する場所が手狭になってきています。また、JR東側には交流の場が不足しています。

■自動車による交通問題などが発生しています

○琵琶湖大橋取付道路の混雑を避けて細い街路を通り抜ける等の自動車マナーの低下や、野洲川を渡る橋の交通渋滞の発生など、自動車による交通問題が発生しています。

■道路や公園、河川などで施設の充実が求められています

○安心して歩いて暮らせるまちづくりに向けて、通学路の確保など歩行者の安全策が求められています。
○水辺や緑地の保全を図るとともに、これらを活用したまちづくりを推進することが求められています。

■地域資源の有効活用が求められています

○中山道にまつわる史跡や神社仏閣、遺跡等歴史ある地域資源が数多く残っており、地域を盛り上げるために有効活用することが求められています。
○魅力ある地域資源の存在や魅力に気付かない人や無関心な人が少なくありません。

■自治会活動の担い手が不足しています

○集合住宅等の立地により新しく転入された地域の人々が増加しています。一方で、近所や地域にあまり関心を持たず地域の人々同士のつながりが希薄になるという傾向がみられます。
○自治会活動への不参加や役員の新旧交代が難しいことでの役員の高齢化も進み、今後、地域を支える人材がいなくなる不安があります。

吉身学区活性化の基本方向

吉身学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、おおよそ5年先のめざすべき吉身学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取り組みの方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

まちづくりのテーマ

吉身はめざします

自然・歴史・文化を次世代につなげるまち

吉身学区は、高層の住宅が建ち並ぶ都会的な街並みの中に、中山道沿いでは旧街道の雰囲気や、野洲川をはじめ地域を流れる河川沿いの四季折々の自然豊かな風景を残す、新旧の良さが混在した地域です。その半面、開発が進んだことにより、自然の減少、交流の場の不足、住民同士のつながりの弱さによる地域活動の場所や担い手の不足などの問題も発生しています。

まちの活性化のためには、あらゆる世代や立場の住民がともにまちづくりを進めていくことが大切です。このため、ホテルや豊かな水資源、住吉神社や下之郷遺跡、中山道等の自然・歴史・文化のたからものを活かした取り組みを行い、これを通じて住民同士がつながり、たからものを大切に次世代へとつなげることのできるまちづくりを進めていきます。

<取り組みの方針>

- 【方針1】 自然・景色に恵まれた新しい時代の里づくり
- 【方針2】 子どもや高齢者が安心して行動できるまちづくり
- 【方針3】 あちこちにいつもみんなが集まる場所のあるまちづくり
- 【方針4】 中山道をはじめとする地域遺産を活かした歴史を感じられるまちづくり
- 【方針5】 だれもが気軽に参加して地域を盛り上げるまちづくり

<まちづくりのプロジェクト>

- 祭りだ！わっしょいプロジェクト
- 中山道を軸とした観光促進プロジェクト
- 吉身の歴史・伝統をつなぐプロジェクト
- ホテルを守ろうプロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取り組み方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

※ **地域**とは、学区や自治会の住民、市民活動団体のこと。

A ホタルを守ろうプロジェクト

吉身学区には、守山川をはじめとするまちをめぐる河川や立入水源地などの豊富な水辺があり、その多くにはホタルが生息しています。まちなかに残された貴重な環境を大切にしていくために、地域の人々がホタルや田畑や川など親しみ、守り育てるための仕組みをつくります。

取り組み1 ホタルを守る（自然を大切にする）ための仕組みづくり

- ▶ イベントや勉強会、ごみ拾いなどの実施 **ソフト** **地域**
- ▶ ホタルを守るクラブ活動等の取り組みと、夏祭りや自治会館等での活動結果の展示 **ソフト** **地域**
- ▶ 自動車のライトがホタルの生育に影響しないようにパネルを設置 **ハード** **地域**
- ▶ ホタルのえさ（カワニナ）の保全 **ソフト** **地域**
- ▶ 川の法面に土を残す工法の採用 **ハード** **行政**
- ▶ 自然を守るルールなどの研究 **ソフト** **地域**

取り組み2 ホタル祭りの開催

- ▶ ホタルが飛ぶ時期に各自治会等で地域の人々手作りの交流イベントを開催 **ソフト** **地域**
- ▶ ホタル鑑賞の夕べや鑑賞ツアーの実施 **ソフト** **地域**

取り組み3 自然に親しむイベントの開催

- ▶ 川遊びや魚つかみ、水生生物学習会などの開催 **ソフト** **地域**

取り組み4 水辺の遊歩道（ホタルロード）づくり

- ▶ 水辺の遊歩道の整備 **ハード** **行政**

取り組み5 自然に親しむ環境づくり

- ▶ 河川沿いの緑地の確保（ホタルの保護、遊歩道整備など） **ハード** **行政**

取り組み6 開発と保全のバランスの確保

- ▶ 民間開発の進展に対する自然を保全する意識（配慮）の醸成 **ソフト** **行政**

B 吉身の歴史・伝統をつなぐプロジェクト

下之郷遺跡や中山道のほか、新川神社や東福寺、慈眼寺、馬路石邊神社などの数多く残る歴史文化資源を活かし、吉身の魅力を地域内外の人に知ってもらうとともに、地域の人々が地域に誇りや愛着をもって、歴史・伝統・文化を次代に引き継いでいくための取り組みを展開します。

取り組み1 歴史・伝統文化の語り部の育成と活躍の場づくり

- ▶ 町名の由来調べ等、地域の人々が地域の歴史を知る機会づくり **ソフト** **地域**
- ▶ 吉身まち歩きルートの設定やマップ作成、まち歩きイベントへの参加を通じ、地域の人々が

- 来訪者へ自分たちのまちを紹介できるように育成 **ソフト** **地域**
- 小学校への先生等へ地域の歴史を知ってもらう啓蒙活動の実施 **ソフト** **行政**
- 紙芝居の作成 **ソフト** **地域**

取り組み2 下之郷遺跡を活用した地域の人々主体の憩いの場づくり

- 下之郷遺跡の既存施設を有効活用し、地域の人々が主体となったまちづくり拠点としての活用方法等を検討 **ソフト+ハード** **地域+行政**

取り組み3 下之郷遺跡を軸とした交流活動の活性化

- 下之郷遺跡やその他史跡を有効活用し、まち歩きやフリーマーケット等地域の人々の憩いの空間や交流の機会をつくる取り組みを実施 **ソフト+ハード** **地域+行政**

取り組み4 吉身まちあるきルートの設定、マップの作成・配布

- まちの探検ルートの設定 **ソフト** **地域**
- 歴史資源を知ってもらうルートに加え、健康づくりで活用できるルートの設定 **ソフト** **地域**
- ルートを明示したマップの作成と紹介 **ソフト** **地域**

取り組み5 吉身まちあるきイベントなどの開催

- 若者に参加してもらうための仕組みづくり **ソフト** **地域**
- NPOの立ち上げなどの継続するための仕組みづくり **ソフト** **地域**
- 成功事例の学習 **ソフト** **地域**
- 火祭り等の他のイベントの活用（祭り観賞まちあるきなど） **ソフト** **地域**

C 中山道を軸とした観光促進プロジェクト

吉身学区及び周辺に多く残る中山道に関連する史跡を活用し、吉身学区の風土や魅力を地域内外の人に知ってもらうとともに、地域の人々が地域に誇りをもって生活できるよう、まちを知る機会やまちの魅力を磨き高める取り組みを展開します。

取り組み1 中山道ウォーキングルートの設定、マップの作成・配布

- 観光客の来訪をねらったインターネット等での情報発信 **ソフト** **地域**

取り組み2 中山道ウォーキングイベントなどの開催

- JRや旅行会社との連携 **ソフト** **地域**
- イベントでの市や地域の商業者との連携 **ソフト** **地域+行政**
- 地域の人々全員がガイドになれるようにする **ソフト** **地域**
- 自治会で中山道関連の歴史について学ぶ機会を提供 **ソフト** **地域**

D 祭りだ！わっしょいプロジェクト

地域の取り組みに関心の低い若者の参加を盛り上げ、希薄化した地域の人々同士のつながりを強くするため、伝統ある祭りや学区民の集い等のイベントのリニューアルや内容を工夫した開催に取り組みます。

取り組み1 学区民のつどいのリニューアル

- 子どもが参加できるプログラムの構築 **ソフト** **地域**

取り組み2 伝統ある行事の盛り上げ

- 祭りの世話役と話し合い、サポートできることを把握 **ソフト** **地域**
- 夜店などの出店 **ソフト** **地域**

取り組み3 イベントの開催

- 学区運動会の開催 **ソフト** **地域**
- 季節ごとの定期的なイベントの開催 **ソフト** **地域**
- 内容（日時、場所など）の明確化など、自治会を通じた周知情報発信の徹底 **ソフト** **地域**
- 当番制での開催 **ソフト** **地域**

取り組み4 吉身の行事・イベントの情報発信

- スタンプラリーの開催 **ソフト** **地域**

取り組み5 子どもが楽しく遊べる場づくり

- 日よけや水辺の整備 **ハード** **行政**
- 利用ルールの徹底 **ソフト** **地域**

吉身学区活性化の実現に向けて

吉身学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】 ※ 地域 とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと。
A. ホタルを守ろうプロジェクト	学区からの働きかけによって各自治会でホタルを意識した取り組みを始め、自然保護意識の醸成に取り組めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ拾い、ホタル鑑賞会、川遊び、イベント幼虫やカワニナの育成等の実施 ソフト 地域 ・水生生物学習会等の学習会の開催 ソフト 地域 ・ホタルを保護し、繁殖させるための生息環境を整備 ハード 行政 ・水辺の遊歩道整備 ハード 行政 ・自然に親しむ環境づくり(ホタルの保護) ハード 行政
B. 吉身の歴史・伝統をつなぐプロジェクト C. 中山道を軸とした観光促進プロジェクト	既存組織や地元自治会との連携を図りながら、学区の取り組みとして下之郷遺跡等の歴史資源を活用したイベントの開催等に取り組めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・既存組織と併せて地域の人々や公募による検討グループを結成 ソフト 地域 ・地域内のまち歩き、史跡めぐりルートの設定 ソフト 地域 ・中山道ウォーキングマップの作成 ソフト 地域 ・ウォーキングイベントの開催 ソフト 地域 ・ボランティアガイドの育成や勉強会の実施 ソフト 地域 ・下之郷遺跡を活用した憩いの場づくり ソフト+ハード 地域+行政
D. 祭りだ！わっしょいプロジェクト	地域活動の担い手づくりや新旧住民同士の交流を深めるため、交流事業の推進、改善に取り組めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・既存組織と併せて地域の人々や公募による検討グループを結成 ソフト 地域 ・学区民のつどいの改善、学区運動会の開催 ソフト 地域 ・季節ごとのイベントを開催 ソフト 地域 ・スタンプラリーの開催 ソフト 地域
全 般 行政	地域と行政の協働のもと、プラン（プロジェクト）の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・地区会館とともに連携した支援(調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援(まずは既存制度を活用)) ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘案し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有(隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進)

小津学区

まるごと活性化プラン



写真

写真

写真

写真



小津学区はこんなまちです

■位置

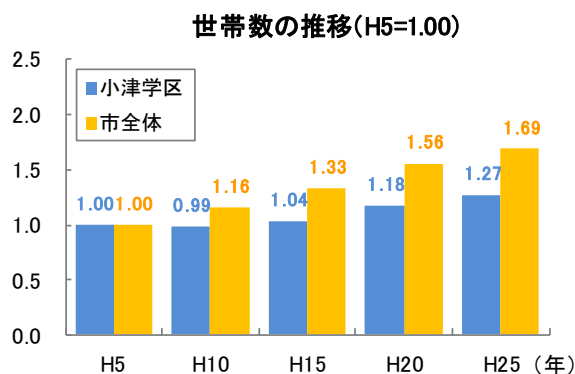
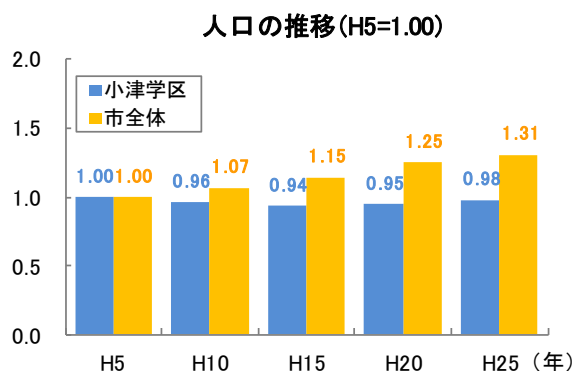
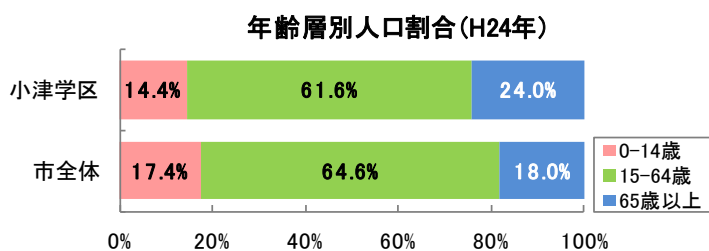
- 小津学区は、本市の西部に位置しており、南は草津市や栗東市に、学区の西は琵琶湖に接しています。
- 東部の一部を除く大部分が市街化調整区域となっています。学区の南や東部分を中心に 1970 年代から宅地開発が進み、また、西側の地域では旧集落が集まり田園風景が広がっています。
- 学区の東側は市民交流ゾーンに位置づけられ、市民をはじめ、多くの人々が多様な交流活動を行う憩いの空間として環境整備が進められています。

■成り立ち

- 小津学区は、古くから沃野の農耕地域として、また、地域内を通る志那街道や中山道と志那港や赤野井港などの湖上交通の拠点を結ぶ交通の要衝として発展してきました。
- 中世には、金森合戦を経て、金森御坊を中心とした寺内町として栄えました。地域に伝わる文化財や地名、遺構など当時の歴史を物語っています。
- 現在では、立命館守山中・高等学校が地域内にあることや、市民ホール、運動公園、図書館等がある市民交流ゾーンにも隣接することから、良好な住環境を求めた住宅地開発も進んでいます。

■人の動き

- 人口は 5,903 人（平成 25 年）で、市全体の 7.4% を占めています。平成 15 年までは減少傾向でしたが、それ以降は増加に転じ、この 10 年間で約 5% 増えています。
- 年齢別にみると、0～14 歳が約 14%、65 歳以上は約 24% であり、市全体と比べるとやや少子・高齢化が進んでいます。
- 宅地開発が進む学区の南や東の地域では人口が増加する一方、旧集落が集まる西側の地域では人口の減少と高齢化がみられます。



地域のたからもの

小津学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■ホタルや水、田園風景など自然があふれています

○境川と旧野洲川の中洲に位置することから、地域内を多くの河川が流れており、小津袋※のような湖岸の水環境とあわせて、水がいつも生活とともにあるまちです。

○身近な川にはきれいな水が流れ、ホタルが飛び交い、鯉やカモが泳いでいます。

○三上山や対岸の比叡山の眺望と美しい田園風景が広がっています。また、芦刈園や新守山川の桜等、季節を感じる花も豊富で、自然の豊かさが大きな特徴となっています。

※小津袋：烏丸半島から赤野井漁港がある湾状の一带。かつては、大津や堅田などへの船が行き交うにぎやかな場所であった。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■先人たちより、歴史や伝統を受け継いでいます

○蓮如上人※ゆかりの金森御坊や、小津神社に代表される由緒ある神社仏閣、その他中世の城跡等の歴史的な遺跡が多く残っています。

○志那街道や中山道等の歴史的な街道が交わる交通の要衝であり、寺内町※としての性格を受け継いでいます。

○地域には、琵琶湖の氾濫により湖中へ流失した神霊※を迎えた際、氏子らが踊りを奉納したことが始まりだと伝わる、国選択無形民俗文化財・長刀祭りが伝承されています。

※蓮如上人：室町時代後期の僧。浄土真宗の教えを消息（手紙）の形式で民衆に広めた。布教の最中、金森に開いた道場を拠点に布教を行った。
※寺内町：寺院や道場（御坊）を中心に形成された自治集落。集落は、他からの攻撃に備えるために濠や土居などで囲まれ、防衛的性格が強い。
※神霊：神のみたま。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■人と人が絆でつながっています

○高齢化の進む旧集落と新しく転入してこられた住民が増えている新興地域とがありますが、新旧の住民が上手く連携して生活しています。

○地域の人々同士の連帯意識が強く、自治会活動や祭り等の地域行事が盛んに行われています。

■安心・安全で住み良い住環境です

○古来より、街道が交わるなど交通の便の良い地域であるとともに、守山の中心地として公共施設が充実しています。一方で田園風景や自然が豊富に残り、のどかで住みやすい環境となっています。

○野洲川の改修で水害がなくなり、自然災害の被害を受けることは少なくなりました。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

現在のまちの課題

一方で、小津学区には様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していくことが必要です。

■川や琵琶湖の環境が悪化し、ホタルの生育できる環境が減少しています

- 小津袋や赤野井湾内湖の水質悪化や多量のゴミの流れ込み、外来魚の増加やオオバナミズキンバイ（侵略的外来水生植物）の繁殖が課題となっています。
- ホタルが自生できる環境が少なくなったため、水質や植生の維持・改善が必要です。

■地域に伝わる歴史の伝承、祭りの継続・継承が困難になっています

- 地域の歴史や環境、文化などについてあまり知らない人が増加しており、地域のアイデンティティの維持・継承が課題となっています。
- 長刀祭りを自治会中心で継承していくことが困難な状態になりつつあり、継承方法を模索する必要があります。

■地域のコミュニティや施設などの維持・管理が困難になっています

- 地域の人々同士が気軽に集まれる場所や、子どもを安心して遊ばせることができる場所が少なくなっています。
- 公園や道路脇に生える雑草などに、自治会が行う清掃活動のみで対処することが困難です。

■地域づくりを担う人材が少なくなってきました

- 高齢化の進行に伴い、地域づくりの様々な役割を担う人材が減少しています。
- 生活スタイルの変化や地域の人々の意識の変化により、地域活動への積極性が希薄化しています。

■農業の担い手が少なくなってきました

- 農家の農業離れが進み、後継者が不足しています。

■交通環境の改善が必要です

- 公共交通の利便性が低く、車を運転できない高齢者の通院などが問題となってきています。

小津学区活性化の基本方向

小津学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、おおよそ5年先のめざすべき小津学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取り組みの方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

まちづくりのテーマ

人と水と歴史がつながる生成（きな）りのまち

小津学区は、古来より寺内町、交通の要衝として、様々な人や物が行き交う交流が盛んな地域でした。肥沃な大地と琵琶湖や河川などが、生活・産業・文化等の地域活動の基盤となってきましたが、時代とともに、人から車への往来の変化、自然との触れ合い環境の減少、宅地開発による住民交流機会の増加などにより、まちの環境は様々に変化しています。

まちの活性化のために、飾ることなく自然な気質を活かす「生成り」の考え方を基本に、人・水・歴史といった地域の財産を再認識しながら、環境の変化に合わせてまちづくりに活かすよう取り組んでいきます。そして小津の魅力を地域皆が共有し、地域の外へ、また次世代へ継承していけるようなまちをめざします。

<取り組みの方針>

- 【方針1】 新守山川や小津袋に親しむ憩いと健康の環境づくり
- 【方針2】 多くの世代が地域の歴史・文化と親しみ、身近な魅力からつながる環境づくり
- 【方針3】 生成りから始める推進体制づくり
- 【方針4】 農業に触れるきっかけや制度づくり
- 【方針5】 地域皆が架け橋となり、安心・安全な定住を促進する取り組み

<まちづくりのプロジェクト>

- 水に育まれた小津の文化発見プロジェクト
- 新守山川触れ合い環境整備プロジェクト
- 農からはじまるお付き合いプロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取り組み方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

※ **地域**とは、学区や自治会の住民、市民活動団体のこと。

A 農からはじまるお付き合いプロジェクト

将来の農業の担い手を育成・支援するとともに、地域風土の良さを次代を担う子どもたちや地域の人々に伝えるため、地域内で利用可能な田畑の整理・活用、農業体験や販売所、貸し農園などを展開し、農業をきっかけとした地域内外の人々の交流を図ります。

取り組み1 田畑を活用した農業体験イベント

- ▶ 子どもが楽しみながら農業に親しむことができるイベントの開催 **ソフト** **地域**

取り組み2 野菜販売所の開設と、複数の販売所を結ぶ案内図の作成

- ▶ 公民館や自治会館などを活用した野菜販売スペース（販売所）の開設 **ハード** **地域+行政**
- ▶ 各販売所での異なる野菜の販売、旬の野菜の紹介などの販売所間の連携 **ソフト** **地域**
- ▶ 朝市などの定期的な開催の検討 **ソフト** **地域**

取り組み3 貸し農園の開設と利用者同士や地域との交流の場づくり

- ▶ 地域の遊休農地を貸し農園として活用 **ハード** **行政**
- ▶ 利用者同士や地域住民との交流の実施（農業体験や収穫祭など） **ソフト** **地域**

取り組み4 農業の担い手の募集と初期支援

- ▶ 新たな農業の担い手の募集や参画支援と担い手として育成 **ソフト** **行政**

B 新守山川触れ合い環境整備プロジェクト

地域の人々同士のつながりを強めるとともに、川や琵琶湖の環境を守る意識を高めるため、新守山川を活用し、地域の人々が協力しあって桜並木や花畑、河道の整備に取り組みます。また、イベントを通して、自然とふれあい、愛着を持つ住みやすい風土づくりを推進します。

取り組み1 イベントや活動の実施

- ▶ お花見イベントや川をきれいにする活動の展開 **ソフト** **地域**

取り組み2 桜並木の遊歩道や自転車道の整備

- ▶ 地域の人々が中心となった植樹の実施 **ソフト** **地域**
- ▶ 桜並木の中をゆったりと歩ける遊歩道や自転車道づくり **ハード** **行政**

取り組み3 河道の整備

- ▶ 人が川に入って水辺の自然と触れ合うことができる環境づくり **ハード** **行政**

取り組み4 四季を通して憩える環境づくり

- ▶ 環境を破壊しない自然な水辺環境づくり **ハード** **行政**
- ▶ 水辺の散策路の整備と行き交う人が春夏秋冬を通して憩う場の創出 **ハード** **行政**

取り組み5 芦刈園をビオトープとして活用

- 四季の花を植え、散策路や遊歩道として活用 **ソフト** **地域**

取り組み6 環境学習拠点として集落排水施設を活用

- 魚釣りやカヌー教室の実施など、山賀内湖とともに活用 **ソフト** **地域**

取り組み7 ホタルの育成・保護を通じたホタルと触れ合う環境づくり

- ホタル観賞ルート of 延長 **ソフト** **地域**
- 夏の夜を楽しむルートづくり **ソフト** **地域**
- 他季節のイベントと連携し、年中祭りがあるコミュニティづくり **ソフト** **地域**
- 自治会での「ホタル保護区」の設定と有志での推進 **ソフト** **地域**

取り組み8 グラウンドゴルフコースの設定

- 新守山川河川敷でのグラウンドゴルフコースの設置を検討 **ハード** **行政**

C 水に育まれた小津の文化発見プロジェクト

寺内町にゆかりの地名、蓮如上人を偲ばせる遺物や小津神社など、小津学区に数多く残る地域の歴史を物語るたからものを再発見・再整理するとともに、歴史を紐解きながらPRしていくことで、楽しみながら地域を知り、地域への愛着を深めることができる取り組みを検討します。

取り組み1 小津の地名とその由来の再発見

- 昔から伝わる地名を収集・整理し、地域の歴史を再発見 **ソフト** **地域**

取り組み2 水資源と歴史資源との関係性を紐解く

- 金森長近、蓮如と門前町、信長と一向一揆、環濠など、小津学区の歴史や水の歴史を紐解く **ソフト** **地域**

取り組み3 魅力の再発見・再整理のための勉強会の実施

- 歴史的な魅力を伝える看板や標識などを作成し、地域の人々が協力し合いながら地域のたからものを整理することで、地域への愛着や地域の人々同士のつながりを醸成 **ソフト+ハード** **地域**

取り組み4 四季の花や祭りと連携したマップ・ルートづくり

- 「新守山川触れ合い環境整備プロジェクト」と連携した、地域の魅力（四季の自然や風物詩など）や散歩ルートなどを掲載したマップ作成と地域での活用 **ソフト** **地域**

取り組み5 ウォークルートの設定

- 史跡やゆかりの地などを結ぶ魅力的なウォークルートの設定 **ソフト** **地域**
- 散歩コース（健康づくり）、探検コース（まちを知る）などの検討 **ソフト** **地域**
- 市内全域をつなぐルートの検討 **ソフト** **地域**

取り組み6 若い世代も楽しめるイベントの実施

- 子どもが楽しく学習しながら参加できるスタンプラリーやウォークラリー等の開催 **ソフト** **地域**

小津学区活性化の実現に向けて

小津学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】 ※ 地域 とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと。
A. 農からはじまるお付き合いプロジェクト	遊休農地を有効活用した貸農園、公民館や軒先等を活用して地元で収穫した野菜を販売する朝市等の実施に取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験イベントの実施 ソフト 地域 ・公民館や自治会館を利用した販売所の開設 ソフト 地域+行政 ・案内ルートマップなどの作成 ソフト 地域 ・活用農地の確保 ソフト 地域+行政
B. 新守山川 触れ合い環境整備プロジェクト	地域の人々による新守山川左岸への桜並木づくりについて検討を始めます。また山賀内湖や小津袋を活用した環境学習会等の開催について、学区における既存のグループ等と連携を図りながら推進します。 <ul style="list-style-type: none"> ・河川清掃の実施 ソフト 地域 ・桜並木づくりに向けた整備 ハード 行政 ・桜並木づくりに向けた植栽の実施 ソフト 地域 ・遊歩道や自転車道の整備 ハード 行政 ・ホタルの保護活動、ホタル保護区の設定 ソフト 地域 ・季節ごとのイベントの開催 ソフト 地域 ・環境学習拠点として集落排水施設を再整備 ソフト+ハード 地域+行政
C. 水に育まれた小津の文化発見プロジェクト	新守山川周辺のウォークルート設定やマップの作成、スタンプラリーやウォークラリー、歴史探検ツアーの実施について、地域のまちづくり組織や既存のグループ等とも連携を図りながら取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史資源等の再発見(掘り起こし)と整理 ソフト 地域 ・看板や標識を作成、設置 ソフト 地域 ・ウォーキングマップの作成 ソフト 地域 ・情報発信 ソフト 地域 ・地域を学ぶスタンプラリーやウォークラリーの開催 ソフト 地域
全 般 行政	地域と行政の協働のもと、プラン（プロジェクト）の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> ・地区会館とともに連携した支援(調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援(まずは既存制度を活用)) ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘案し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有(隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進)

玉津学区

まるごと活性化プラン

写真



写真



写真

写真

玉津学区はこんなまちです

■位置

- 玉津学区は、本市の真ん中に位置し、学区の西はわずかに琵琶湖に接しています。
- 学区全体が市街化調整区域であり、浜街道沿線の旧集落のまわりへのどかな田園地帯が広がっています。東側の石田町は市民運動公園を含む市民交流ゾーンに位置し、宅地化が進んでいます。

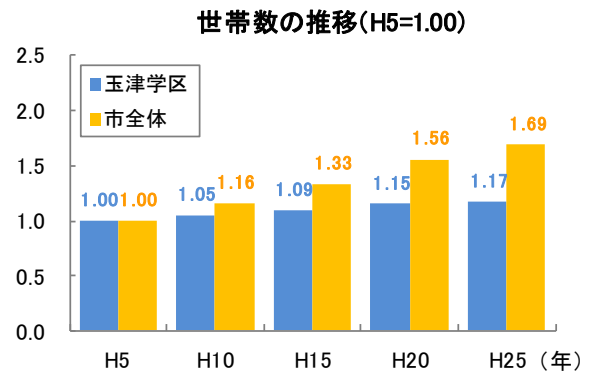
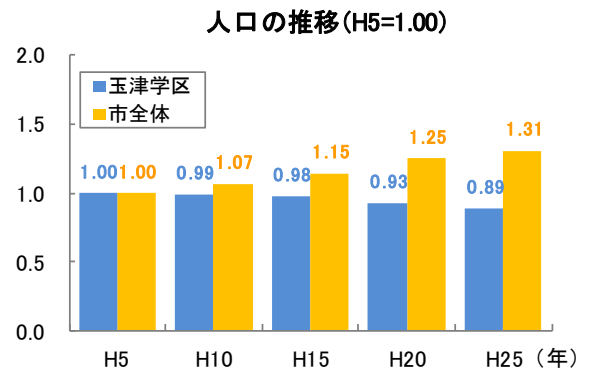
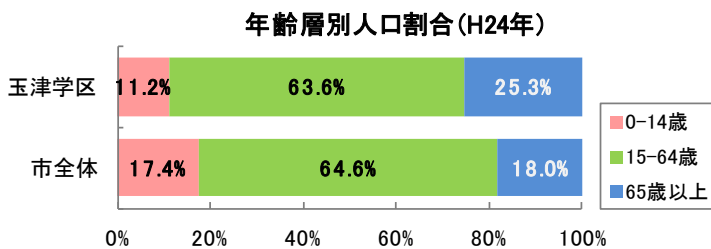
■成り立ち

- 古くからの農村地域であり、赤野井には条里制以前の地割り、十二里には条里制の地名が残っています。
- 足利義昭の矢島御所、一休和尚ゆかりの少林寺、蓮如上人の聞光寺など歴史を語る豊かな文化財に恵まれ、赤野井町には、東西両本願寺の赤野井別院や大庄屋諏訪家屋敷（以下「諏訪家屋敷」）を中心に寺院や屋敷が集まり、商家も見られるなど寺内町的な雰囲気が味わえます。
- 赤野井はかつて琵琶湖の湖上交通の港として役割を果たしました。佐々木氏*が京への近道として整備した佐々木街道、明治時代に中山道と大津・堅田方面の物資を運搬するために運河として整備した石田川が流れ、今も川岸に船を引く船引き道や野洲浦港跡などが残っています。

*佐々木氏：中世の近江国を支配した源氏の流れを汲む武家一族。近江源氏とも呼ばれ繁栄した。

■人の動き

- 人口は4,025人（平成25年）で、市全体の5.1%を占めます。全市人口が増えているのに対して、玉津学区は減少傾向であり、この20年間で約11%減となっています。
- 年齢別にみると、0～14歳が約11%、65歳以上は約25%であり、市全体と比べると少子・高齢化が進んでいます。
- 1世帯あたりの人口は3.1人で、20年間で4.0人から0.9人減少し、核家族化やひとり暮らしの家庭が増えていることを物語っています。



地域のたからもの

玉津学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■人と人のつながりが強い地域です

- 地域の中での人と人のつながりが強いことが特徴です。新たに転入してこられた人々が多い地域も同様で、みんなが協力的です。
- 昔から受け継がれてきた講や火事見舞いなどの助けあい組織・仕組みが残っています。地域の祭りが、人と人をつなぎ地域の人々同士の一一体感を醸成する役割を果たしています。
- 子育て・高齢者サロンや子ども文庫など、現代的な助け合い活動も盛んです。
- 農村地域で労力を奉仕することに抵抗を感じないということもあり、ボランティア精神や地域での協力精神が豊かな土地柄となっています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■さまざまな歴史・伝統・文化が伝えられています

- 諏訪家屋敷や東西別院をはじめとする神社仏閣、祭りなど歴史ある地域資源が数多く残り、地域の人々のまちへの愛着・誇りに繋がっています。
- 湖岸付近には、かつて港、廻船問屋、旅館などがあり、蒸気船の出入りもあって賑わった歴史があり、今もその名残を感じる場所・施設がみられます。
- 昔の暮らしや仕事を物語る、石田の七曲り※、狐塚※等の言い伝えや、わら細工など多くの伝承が残っています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

※石田の七曲り：石田町内の一町ごとに折れ曲がっている道路のこと。中世の石田城の防御上の工夫の痕跡。
※狐塚：石田町古墳時代の集落の遺構。

■豊かな自然と住みやすい環境に恵まれています

- 自然豊かな地域であり、河川や周辺の緑、ホタル等の生物に恵まれ、四季折々の季節感が感じられる環境にあります。
- 水、空気、人間、交通の便が良く住みやすい環境にあります。

■地域らしさを感じる産物や暮らしがあります

- 昔ばなしとともに受け継がれた「矢島かぶら」を漬物にした伝統料理、鮎ずし、守山メロンなどの特産物・特産品があります。
- 玉津小学校では「玉津大発見」という地域を知るための授業を実施しています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

現在のまちの課題

一方で、玉津学区には、人口の減少をはじめ、様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していくことが必要です。

■コミュニティへの意識が徐々に希薄になり、地域の担い手も不足してきました

- 人と人のつながりの強い地域ではありますが、考え方やライフスタイルの変化に伴い、個人主義の住民も多くなり、徐々に地域の人々同士や地域との関わりが希薄になってきています。
- 地域行事への若者の参加が少なく、青年団など地域団体の解散や、祭りのみこしをかつぐ人も少なくなっています。
- 自治会行事も行いにくくなり、市内で唯一実施している「学区民大運動会」の継続も難しくなっています。

■若者が残り新しい住民が増えにくい状況です

- 市街化調整区域では、新しく宅地をつくりにくいいため、若者が出て行き、新たな住民が転入してくることも少なくなっています。
- 昔ながらのつきあいなどが重荷になることもあり、地域の人々が共有できる意識や制度の見直しも必要です。

■地域の産業の元気がなくなっています

- 農業・漁業を志向する若者が少なく後継者が不足しています。六次産業の推進などで地域の産業を元気にすることが必要です。

■赤野井湾の環境改善と親水環境づくりが必要です

- 赤野井湾は、琵琶湖の中でも汚濁の進んだ水域であり、ハスや外来水生植物（オオバナミズキンバイ）の繁茂による生態系への影響等も懸念されています。
- 地域内の河川には、かつてのような豊富な水量がなく、水辺で水に触れあえる環境や人々の日常対話が生み出されるような環境づくりが求められています。

■生活しやすい環境づくりが必要です

- 日常の買物をする店の不足、防犯灯、公園、道路改修など生活インフラ整備、公共交通の便の悪さや自動車の増加による事故への対応が必要です。

玉津学区活性化の基本方向

玉津学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、おおよそ5年先のめざすべき玉津学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取り組みの方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

まちづくりのテーマ

玉津の伝統文化を活かし、
先人の暮らしの知恵を子どもたちに引き継ぐまち

玉津学区は古くからの農村地域として、人と人、人と地域のつながりが強く、これが生活、産業、文化など地域の活動を支えてきました。しかしながら、人口が減少し、高齢者の割合も増えており、また、地域の人々の意識や価値観も変化し、地域への関わり方が希薄になってきました。

地域の活性化のためには、地域の人々がまちに誇りを持ち、主体的にまちづくりに関わっていくことが大切です。そのため、自然や先人が残してくれた有形無形の財産を見直し、その魅力や知恵を発掘し、地域内外の人の交流や産業の活性化に活かす取り組みを進めていきます。この取り組みを通じて、玉津の価値を高め地域の財産を未来へと手渡していくとともに、人と地域の新たなつながりや地域づくりの動きが広がっていくことをめざします。

<取り組みの方針>

- 【方針1】 伝統を伝え、賑わいを生む玉津の魅力を活かしたまちづくり
- 【方針2】 赤野井湾を中心とした水と自然のネットワークづくり
- 【方針3】 交流を活かした農業漁業が元気な玉津の産業づくり
- 【方針4】 住民が住み続けたい・新しい人が転入しやすいまちづくり

<まちづくりのプロジェクト>

- 定住促進プロジェクト
- 玉津ホタル祭り、イベント推進プロジェクト
- 食の地産地消推進プロジェクト
- 赤野井湾再生プロジェクト
- 諏訪家屋敷をはじめとする玉津の歴史・伝統文化活用化プロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取り組み方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

※ **地域**とは、学区や自治会の住民、市民活動団体のこと。

A 諏訪家屋敷をはじめとする 玉津の歴史・伝統文化活性化プロジェクト

貴重な地域の財産である赤野井の諏訪家屋敷を再生し、地域の人々の憩いや来訪者との交流の拠点とするとともに、地域の人々やボランティアの人々の取り組みを通じて、まちづくりの担い手を育てる場として活かします。また、諏訪家屋敷を中心に玉津学区の隠れた名所を発掘し、多くの人に楽しんでもらう仕組みをつくります。

取り組み1 諏訪家屋敷を活用した地域の人々主体の憩いの場づくり

- 茶室の整備・修景など諏訪家屋敷の整備・再生 **ハード** **行政**
- 花いっぱい運動など諏訪家屋敷をフィールドとした地域の人々による取り組みの促進 **ソフト** **地域**
- 地域の人々やボランティアによる維持管理・運営 **ソフト** **地域**

取り組み2 諏訪家屋敷を軸とした農村文化まるごと体験

- 諏訪家屋敷等の古民家を活用したまちづくりの推進 **ソフト** **地域+行政**
- 地域の農村生活文化の伝承 **ソフト** **地域**
- 地域の人々がもてなす農村文化体験型プログラムの検討 **ソフト** **地域**

取り組み3 地域の新しい特産物の開発販売

- 諏訪家屋敷周辺の遊休地を活かした生きがい農園花壇の整備 **ソフト** **地域**
- 農産物等の販売・品評会・自然の恵みの感謝祭、フリーマーケット、玉津の特産物を活用した料理教室・試食会などを諏訪家屋敷のイベントとして開催 **ソフト** **地域**

取り組み4 玉津の隠れた名所の掘り起こしと名所選定、手作りツアーの実施

- 諏訪家屋敷などをめぐる歴史街道ツアーの実施 **ソフト** **地域**
- 玉津を歩こう会、お宝発見ツアーの開催 **ソフト** **地域**
- 諏訪まつりの実施 **ソフト** **地域**
- ガイドブックの作成 **ソフト** **地域**
- 名所案内板の設置 **ハード** **地域**

取り組み5 歴史・伝統文化の語り部の育成と活躍の場づくり

- 歴史・伝統文化にかかる文献整理・写真記録、言い伝えの掘り起こし、神社仏閣との連携 **ソフト** **地域**
- 玉津の歴史・伝統文化の語り部の養成と、活躍できる機会や場の創出 **ソフト** **地域**
- 運営組織等の連携による長刀祭りなどの伝統祭りの活性化 **ソフト** **地域**
- 歴史街道ツアーの開催 **ソフト** **地域**

取り組み6 玉津の伝統文化の遊びを次代に伝える仕組みづくり

- 地域の神社仏閣・鎮守の森などにある自然素材でつくる懐かしの遊びの復活・イベント化 **ソフト** **地域**

- ▶ 各在所の行事（夏祭り）などのリレーイベント化 **ソフト** **地域**

B 赤野井湾再生プロジェクト

湖岸の歴史と生活文化の記憶を今に伝える赤野井湾の水運遺構（えり寅、湊屋、廻船問屋、田舟、えり漁法等）を活用して、多くの人々が琵琶湖の歴史と生活文化を学べる機会を創り出すとともに、地元の漁業組合とも連携を図りながら、まちの魅力を磨き上げる取り組みを進めます。

取り組み1 赤野井湾漁業の観光資源化

- ▶ 赤野井湾の水質の改善 **ハード** **地域+行政**
- ▶ 観光漁業の可能性を検討 **ハード** **行政**

取り組み2 水運遺構の歴史や水辺の活用、遊歩道づくり

- ▶ 案内看板等の設置や歴史の語り継ぎなど、水運遺構の歴史再発見 **ハード+ソフト** **地域**
- ▶ 琵琶湖～諏訪屋敷を結ぶ水辺の遊歩道づくりの検討 **ハード** **地域+行政**
- ▶ 自然体験基地づくり、探検ツアーの開催、心身の健康づくりと癒しの場の創出など、五感を使った琵琶湖の自然を学べる仕組みづくり **ソフト** **地域**

C 食の地産地消推進プロジェクト

地元の農産物の利用を進め、地域の産業を活性化するため、新鮮・安全・つくり手の顔が見える安心食材の地産地消と、新たな加工品・商品の開発を進めるとともに、その過程を楽しめるイベントなどを行います。

取り組み1 湖魚・地元農産物の地産地消の促進

- ▶ 地元の食材によるグルメイベントの開催 **ソフト** **地域**
- ▶ 料理教室・調理実習の開催 **ソフト** **地域**
- ▶ 湖魚をおいしくいただくメニューの開発 **ソフト** **地域**
- ▶ 農産物生産者等の共同チームによる直場所などへの出品検討 **ソフト** **地域**
- ▶ 農産物の品評会の開催 **ソフト** **地域**

D 玉津ホタル祭り・イベント推進プロジェクト

ホタルや伝統文化を後世に伝えまちづくりに活かしていくため、市民運動公園や神社、諏訪屋敷などを活用し、玉津を学区民全体で盛り上げるイベントを各自治会が連携して行います。また、ホタル保護の取り組みを積極的に行うとともに、ホタル祭りなどでホタル観賞観光客を呼び込む仕掛けをつくります。

取り組み1 天神川などをホタルの保護区として整備・情報発信

- ▶ 天神川の水量の確保 **ハード** **行政**
- ▶ 小学校のホタル育成活動との連携 **ソフト** **地域**
- ▶ 自然に配慮した河川護岸の導入を検討 **ハード** **行政**

取り組み2 玉津ホタル祭りの企画

- 玉津ホタル祭りなどの実施 **ソフト** **地域**
- 他地区のホタル祭りとの連携 **ソフト** **地域**

取り組み3 みんなで楽しむイベントの実施

- スタンプラリー・クイズ等のイベントの開催 **ソフト** **地域**
- 地域の河川を利用した魚つかみ大会、たからもの探し大会・フリーマーケット等のイベントの開催 **ソフト** **地域**
- 自治会連携による学区全体イベントの開催（一本こうじ※相撲大会など） **ソフト** **地域**

※一本こうじ：守山の民話で活躍が語り継がれる力持ちの大男の呼び名。

取り組み4 伝統ある行事を盛り上げる

- 長刀祭り等の伝統ある祭りを誰もが参加できる祭りにするなど盛り上げる方法を検討（広く参加者を募ったり、集落共同出演にすることで見学者の増加や地域間の交流を期待） **ソフト** **地域**

取り組み5 玉津の行事・イベントの情報発信

- 玉津情報発信パンフレット・マップの作成、インターネットによる情報発信（ホームページ作成） **ソフト** **地域**

E 定住促進プロジェクト

玉津学区の人口減少や少子高齢化を抑え少しでも定住する人が増加するよう、新たな人々の受け入れ態勢の整備や、今住んでいる人がより住みやすくなるような社会慣行の見直し等を地域が主体となって検討、実施していきます。

取り組み1 地区計画の検討・調整区域の見直し

- 定住促進に向けた法制度の活用 **ソフト** **地域+行政**

取り組み2 生活慣行の見直し

- 地域の人々がより住みやすくなる地域社会の生活慣行のあり方の協議・必要な見直し **ソフト** **地域**

取り組み3 将来のまちづくりに向けた協議の場への若者の参加促進

- まちづくり活動への若者の参加促進・協議の仕組みの工夫 **ソフト** **地域**

取り組み4 地域の人々の安全・安心を確保できる環境整備

- 高齢者・障害者・子ども・子育て家庭などの仲間づくり、居場所づくり **ソフト** **地域**
- 地域の安全・安心創出活動（関係団体の連携強化） **ソフト** **地域**

玉津学区活性化の実現に向けて

玉津学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】 ※ 地域 とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと。
A. 諏訪屋敷をはじめとする玉津の歴史・伝統文化活性化プロジェクト	<p>地域の人々で諏訪家屋敷内の花壇や農園づくり、地元野菜の販売やフリーマーケットなどを実施します。現在取り組んでいる自治会やグループと連携を図りながら、学区全体の取り組みに高めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々やボランティア等による諏訪家屋敷活用を推進する委員会の立ち上げと活用方策の検討(憩いの場作り) ソフト 地域+行政 ・ボランティアの確保(庭の手入れ、花の植栽) ソフト 地域 ・フリーマーケットや野菜の販売などの実施 ソフト 地域 ・隠れた名所の掘り起こし、歩こう会や歴史街道ツアーなどの実施 ソフト 地域 ・歴史や伝統文化の語り部の育成(学習会を開催) ソフト 地域 ・伝統行事のPR(手作りパンフレットやマップの作成) ソフト 地域 ・諏訪家屋敷の再整備 ハード 行政
B. 赤野井湾再生プロジェクト	<p>小学校や隣接する小津学区、漁業組合等と連携を図りながら、体験ツアーや自然学習会などを開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤野井湾再生プロジェクトの推進 ソフト 地域+行政 ・体験ツアーの実施(観光漁業の試行) ソフト 地域 ・外来魚を逆手にとった駆除イベントの実施 ソフト 地域 ・赤野井湾を活用した自然学習、体験学習の実施(小学校と連携) ソフト 地域 ・草刈りなどの実施 ソフト 地域
C. 食の地産地消推進プロジェクト	<p>地域内の各自治会におけるイベントで、地元でとれた野菜販売やフリーマーケットの開催を、各自治会と連携を図りながら推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グルメイベントの開催 ソフト 地域 ・料理教室・調理実習の開催(伝承を通じた世代間交流) ソフト 地域 ・湖魚活用メニューの開発 ソフト 地域 ・野菜販売やフリーマーケットの実施 ソフト 地域 ・直売所等への出品 ソフト 地域 ・学区民の集いの中で伝統食を食する機会の創出 ソフト 地域
D. 玉津ホタル祭り・イベント推進プロジェクト	<p>ホタルが飛ぶ川を清掃する際のルールを定めるなど、ホタルを守る意識の醸成に取り組みます。また、玉津を地域全体で盛り上げるイベントの開催や地域情報の発信を工夫します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然に親しむ環境づくり(ホタルの保護) ソフト 地域 ・ホタルを保護し、繁殖させるための生息環境を整備 ハード 行政 ・玉津らしいイベント(玉津ホタル祭りなど)の開催と他地域との連携 ソフト 地域 ・既存の行事の中身の見直し ソフト 地域 ・若者に参加してもらえる工夫・若者の発想の重視 ソフト 地域 ・情報発信パンフレットやマップなどの作成 ソフト 地域
E. 定住促進プロジェクト	<p>行政との連携を図りながら地区計画の検討を進めるとともに、住んでいる人が住みやすくなるよう改善に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調整区域における地区計画の検討 ソフト 地域+行政

プロジェクト	<p>まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】</p> <p>※ 地域とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活慣行の見直しの推進 ソフト 地域 ・地域の人々の安全安心を確保できる環境づくりについて研究(先進事例のノウハウを活用) ソフト 地域
<p>全 般</p> <p>行政</p>	<p>地域と行政の協働のもと、プラン（プロジェクト）の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区会館とともに連携した支援(調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援(まずは既存制度を活用)) ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘案し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有(隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進)

河西学区

まるごと活性化プラン

写真

写真



写真

写真

河西学区はこんなまちです

■位置

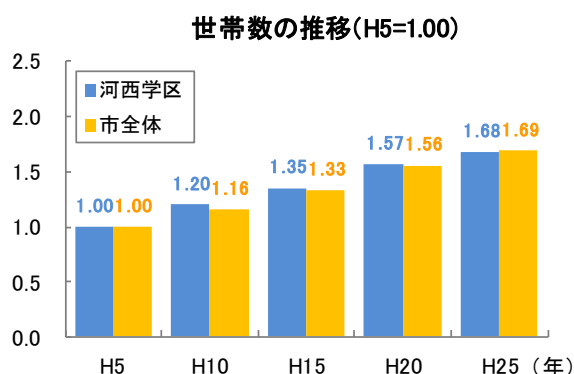
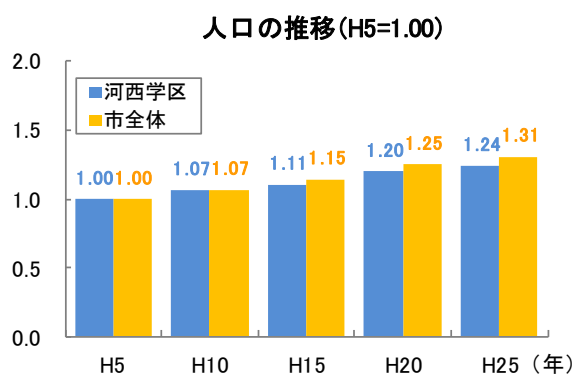
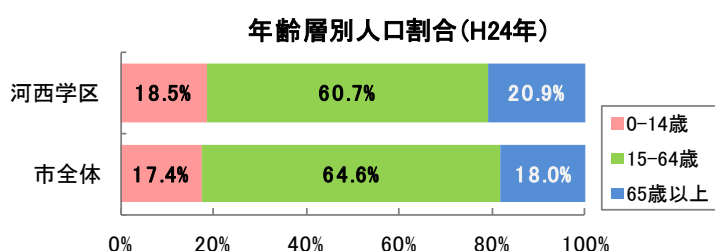
- 河西学区は、本市東部の中ほどに位置する野洲川に沿った地域です。
- 学区の南部、約3分の1が市街化区域で、レインボーロード（琵琶湖大橋取付道路）を挟んで大型店舗を抱える市街地や住宅地があります。北部は市街化調整区域であり、田園地帯が広がって古い集落が点在しています。

■成り立ち

- 野洲川が伏流する湧水地帯で水利が豊かである河西学区には古くから人が住んでいました。八ノ坪、阿比留、播磨田東等の縄文時代から古墳時代にかけての遺跡が地域内で発見されています。
 - 河西の人々は、野洲川の恵みを受け生活するとともに、その脅威と闘ってきた長い歴史があります。今も、御神体の流出をタニシが守った言い伝えや各地に残る水止め石や阿比留の「かわと」など、野洲川と湧水に関わる伝承や遺構があります。
 - かつては、琵琶湖と内陸を結ぶ交通路としても重要な地域であり、近江源氏佐々木氏^{*}の本拠と赤野井を結ぶ、佐々木道や錦織寺の参詣道である錦織寺道などの幹線道路が今も残ります。
 - 戦後になり、琵琶湖大橋取付道路開通（昭和39年）、市街化区域設定（昭和45年）、野洲川放水路の通水開始（昭和54年）などにより南部を中心として市街地化が進み、現在の姿となりました。
- ※佐々木氏：中世の近江国を支配した源氏の流れを汲む武家一族。近江源氏とも呼ばれ繁栄した。

■人の動き

- 人口は13,562人（平成25年）で、市全体の17%を占めます。市全体と同様に増加傾向で、河西学区ではこの20年間で約24%増加しました。
- 年齢別にみると、0～14歳が約19%、65歳以上は約21%であり、市全体とほぼ同じ年齢構成となっています。



地域のたからもの

河西学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■野洲川がもたらす自然の恩恵にあふれる地域です

- 野洲川の伏流水や湧水、そしてそれらがもたらす自然環境が大切な「たからもの」となっており、「かわと」やホタル、鯉・鮒等がおよぐ地域の生活に身近な河川「里川」があります。
- 桜並木やホタル等、四季を彩る自然が豊富で、また野洲川からのぞむ周囲の山々の素晴らしい眺望など、多様な自然の恵みに囲まれています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■人のつながりの強い元気なまちです

- 毎週、集まりを行っている自治会や、サークルが28もある自治会などがあり、地域の人々の交流は活発に行われています。また、自治会によっては、新旧の住民が混在している地域がありますが、運動会等の活動を通じて交流を図っています。
- 高齢化の進んでいる地域がある一方で、宅地開発により若い世代の流入もみられ、地域の活力向上が期待されます。

■歴史のある伝統・文化が今に伝わるまちです

- 伝統的な地域資源（由緒ある寺社仏閣、今に伝わる伝統文化・祭り・行事など）が数多く残っており、地域の人々による伝統的行事の継承が行われています。
- 播磨田遺跡・阿比留遺跡等、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡や、遺産・建造物が数多くあり、さらなる活用が期待されています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■河西学区ならではのユニークな「たからもの」があります

- 室町時代から600年もの間、地域の人々の手で守り育てられ、市の花にも指定されている「近江妙蓮」、地域を流れる水の恵みを生活に活かす阿比留の「かわと」などのユニークな「たからもの」があります。
- 農産品にも「笠原生姜」や湧水を活かした「わさび」の栽培など特徴的なものがあります。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

現在のまちの課題

一方で、河西学区には、様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していくことが必要です。

■地域活動や行事の担い手・人材が不足しています

- 若者の地域離れや高齢化により地域活動の参加者や担い手が不足し、将来のまちづくりの担い手育成の場でもあった青年団がなくなった地区もあります。
- 地域団体同士の横のつながりがない（自治会と PTA 等との連携がない）といった状況がみられ、効果的な地域活動の妨げとなっています。
- 高齢化、新しい住民層の増加、若者の自治会への関心低下等により自治会運営に支障が生じています。

■新旧住民・世代間の交流が希薄化しています

- 宅地開発が進み新しい世帯が増えてきていますが、新旧地域の人々のつながりが希薄であり、また世代間の交流も少なくなっています。
- 祭りや自治会行事に若者を対象としたものが少なく、参加者が減少しています。幅広い年齢層への積極的なアピールや、誰もが参加したいと思うようなイベントが求められています。

■妙蓮や遺跡、水資源・ホタル・桜等の「たからもの」の活用・保全が不十分です

- 湧水・庄屋屋敷・旧野洲川跡など、しっかりと語り継がれていない「たからもの」があります。
- 近江妙蓮や遺跡等の P R や説明看板などの整備等が求められています。
- 妙蓮や水資源、ホタル、桜等の地域のたからもの資源を活かしきれっていません。
- かわとや地区内の川、桜、ホタルなどの保全・復活に取り組む必要あります。

■公園や道路、水害対策とともにバランスの取れたまちづくりが必要です

- 子どもを自由に遊ばせる公園が少なく、多くの人が集える大きな公園がありません。
- 地域内に市街化区域と市街化調整区域が混在し、地域によって人口のバラツキが存在します。
- 道路が狭いところがあり、交通渋滞が発生し、交通安全の確保が難しくなっています。
- 農業の後継者が不足しています。
- 住宅開発などで田畑が少なくなってきたことで、治水上の問題が発生しています。

■マナーの悪さや生活ルールが守られない状況がみられます

- 青少年の道徳マナーの悪さ、ごみ出しのルール違反や生活騒音といった問題が一部で見られます。

河西学区活性化の基本方向

河西学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、おおよそ5年先のめざすべき河西学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取り組みの方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

まちづくりのテーマ

「人をつなぐ」「四季をつなぐ」「たからものをつなぐ」
未来につながるまちづくり

河西学区では、これまでも人のつながり、自然の恩恵、歴史のある伝統・文化などの「たからもの」を大切にしながら、地域の個性を育み、まちづくりを進めてきました。しかし、少子高齢化の進行や市街地開発など、時代の流れや環境の変化により、まちづくりにも課題が見られるようになってきました。

河西学区の活性化に向け、もう一度地域にある「たからもの」を見直して、それぞれが持つ魅力や役割をつないでいきます。地域内外の人と人との関わりや取り組みをつなぎ、四季の自然の恵みをつなぎ、さまざまな歴史・文化資源を地域の個性としてつなぎ発信していくことにより、河西の活力・魅力を向上させ、未来につながるまちづくりを展開していきます。

<取り組みの方針>

- 【方針1】自然の保全を念頭においた地域の活性化
- 【方針2】近江妙蓮や遺跡を活用した個性輝くまちづくり
- 【方針3】地域間・世代間の交流を活性化させる地域活動の推進
- 【方針4】だれもが安心・快適にくらせるまちづくり

<まちづくりのプロジェクト>

- 健やか・安心・快適な生活環境創出プロジェクト
- 河西のみんなで「つながる」プロジェクト
- 河西の「身近な魅力」情報発信プロジェクト
- 近江妙蓮活用プロジェクト
- 野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取り組み方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

※ **地域**とは、学区や自治会の住民、市民活動団体のこと。

A 野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト

河西学区には、野洲川をはじめ法竜川や里川（地域の生活に身近な河川）などの水辺空間が豊富であり、地域の人々同士のつながりを深めるため、この水辺空間を積極的に活用した地域の交流・憩いの場・機会づくりを進めます。

取り組み1 野洲川の自然との触れ合い体験

- 川面へのアプローチや飛び石等の整備などの親水空間の整備 **ハード** **行政**
- 笠原の桜・河川公園・魚ポイントを連携させた活用・情報発信 **ソフト** **地域**
- 魚を「獲って、食べる」子ども向けイベントの開催 **ソフト** **地域**
- 「いかだ流し」の復興など新たな地域イベントの創出 **ソフト** **地域**

取り組み2 野洲川「花いっぱい」運動

- 野洲川河川敷のウォーキングルートとコスモス園などの整備 **ハード** **行政**
- 自治会同士の連携による「花いっぱい」運動の実施 **ソフト** **地域**

取り組み3 法竜川での「魚あそび」

- 浅くてきれいな川での子ども向け魚つかみ大会の開催 **ソフト** **地域**

取り組み4 里川を「遊空間」としての活用

- 「水遊び安全教室」の開催 **ソフト** **地域**

B 近江妙蓮活用プロジェクト

受け継がれてきた近江妙蓮や豊かな自然を大切に保全するとともに、地域内外との交流への活用、観光物産品の開発、妙蓮公園の機能拡充による地域の魅力向上に取り組みます。また、一年を通じて豊かな自然と触れ合い、実感し、このまちの魅力を守る意識を醸成するため、季節の花の活用や植樹、ホタルの保護などの取り組みを推進します。

取り組み1 近江妙蓮を中心とした地域間交流

- 蓮で有名なまちとの姉妹提携や、蓮めぐり交流ツアー等を実施 **ソフト** **地域+行政**
- 全国的な知名度向上に向けた国の天然記念物への申請の検討 **ソフト** **行政**
- 古文書の貸出などへの対応など管理体制の充実 **ソフト** **地域**
- 駐車場の更なる確保など、観光客の受け入れ態勢の整備 **ハード** **行政**

取り組み2 地域の人々の参画による妙蓮公園の魅力向上

- 妙蓮公園に全国から蓮の花を集めるなど、機能・魅力の向上 **ソフト** **地域**
- 地域の人々の参画による妙蓮の管理 **ソフト** **地域**
- 地元向けの学習会の開催や情報発信 **ソフト** **地域**

取り組み3 季節の花や果樹を活用し「四季をつなぐ」取り組み

- 近江妙蓮、笠原桜並木、野洲川の堤防等の敷地を活用した花畑、グランドゴルフ場等と連携したお花見スポットの整備 **ハード** **行政**
- 桜や水仙、彼岸花等の球根植物など、季節の草花の活用 **ソフト** **地域**
- 栗・柿等の果樹の植栽 **ソフト** **地域*行政**
- 野洲川河川敷のウォーキングルートを整備（再掲） **ハード** **行政**

C 河西の「身近な魅力」情報発信プロジェクト

河西学区のみどころやイベントの中には、地域内でもあまり知られていないものもあり、より多くの人々（特に、子育て世代の人々や若者など）に河西の魅力を身近に感じ、楽しんでもらうため、地域の魅力を整理したマップやイベント情報の発信の工夫を行い、積極的な情報発信を行います。

取り組み1 河西のみどころマップの作成

- 地域内の歴史・文化遺産のみならず、豊かな自然を紹介するマップづくり **ソフト** **地域**

取り組み2 情報発信の拡充

- 「たからもの」の案内板の整備（音声案内を含む） **ハード** **地域**
- ホームページや学区新聞によるイベント・行事などの広報拡充 **ソフト** **地域**
- ウォーキングルート・サイクリングルートの設定 **ソフト** **地域**
- 「かわと」をはじめとした水の歴史の情報発信 **ソフト** **地域**
- まちを紹介するハンドブック「河西物語」の作成 **ソフト** **地域**

取り組み3 「はなだより」情報の発信

- 桜や近江妙蓮、薄墨桜、コスモス等、地域の花の開花状況などの情報発信 **ソフト** **地域**

D 河西のみんなで「つながる」プロジェクト

人のつながりの希薄化を解消するためにも、河西学区で行われているイベントや行事の実施方法や内容の工夫をしたり、規模を拡充することで、自治会の住民同士や新旧住民・世代間の交流を促進します。また、それぞれの自治会で行われているイベントにおいても工夫、改善することで交流のさらなる活性化に取り組みます。

取り組み1 自治会同士や新旧住民で交流し「つながる」

- 自治会の連携による「学区民の集い」や運動会の拡充と参加型イベントの開催 **ソフト** **地域**
- トーナメント形式のスポーツ大会など、誰もが参加しやすいイベントづくり **ソフト** **地域**
- 集客力向上に向けた、イベントなどの魅力の向上・情報発信 **ソフト** **地域**

取り組み2 若い世代が交流し「つながる」

- 若者の企画による、行事と音楽イベントなどを組み合わせた若者・新住民向け行事の開催 **ソフト** **地域**
- 子育て世代を対象とする、親子で楽しむイベント・行事の開催 **ソフト** **地域**
- イベントでの託児の実施など、子育て世代の参加環境の整備 **ソフト** **地域**
- ゴルフ・ソフトボール・ボウリング等、多様なスポーツイベントの開催 **ソフト** **地域**

- 「子どもかるた大会」「子ども将棋大会」の開催 **ソフト** **地域**

取り組み3 世代間で交流し「つながる」

- 子どもから高齢者まで、あらゆる世代が楽しめる河西学区大運動会の開催 **ソフト** **地域**
- 公園を活用した健康促進の取り組み等による、子どもから高齢者まであらゆる世代の交流 **ソフト** **地域**
- 夏休みに自治会館を開放し、子どもと高齢者対象のイベントを開催 **ソフト** **地域**
- 魚釣り等自然を活用した遊びを通じた世代間交流 **ソフト** **地域**

取り組み4 それぞれの自治会におけるユニークな行事・イベントを通じて「つながる」

- 神社での年末のしめ縄作りへの老人クラブ以外の学区民の参加促進 **ソフト** **地域**
- 阿比留の灯明踊りや初詣で灯される子どもが作ったペットボトル灯籠を地域全体に展開 **ソフト** **地域**
- 祭りのみこしへの子ども会の参加による交流の促進 **ソフト** **地域**

E 健やか・安心・快適な生活環境創出プロジェクト

誰もが健やかで安心して快適に暮らせる生活環境を創出するため、高齢者を支える仕組みづくり、公園や河川・道路整備、生活マナーの向上、ホタル河川の整備やホタルの保護の推進など、幅広く生活環境の改善に取り組みます。

取り組み1 高齢者の買い物支援

- 企業保有のバスの活用、買い物支援など、企業・事業者の力を活かした高齢者の暮らしを支える仕組みの検討 **ソフト** **地域**

取り組み2 公園・道路・河川の整備検討への積極的な参画

- 野洲川河川敷などにサッカーや野球が出来るスポーツ公園を整備 **ハード** **行政**
- フェンスで公園を囲むなど、ボール遊びのできる公園の整備 **ハード** **行政**
- ホタル、コスモス、桜など、ひとつの特色に秀でた公園・緑地の整備 **ハード** **行政**
- 野洲川新堤防の道路整備 **ハード** **行政**
- ホタルの住める里川（地域の生活に身近な河川）の環境整備 **ハード** **行政**

河西学区活性化の実現に向けて

河西学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】 ※ 地域 とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと。
A. 野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト	学区として、四季を通じて花や川辺の風景、自然が楽しめる地域づくりに取り組みます。 ・自治会の連携による「花いっぱい」運動の実施(野洲川河川敷、市民農園、遊休地などを活用) ソフト 地域 ・子ども向けの自然ふれあいイベントの実施 ソフト 地域 ・野洲川河川敷のウォーキングルートの整備 ハード 行政
B. 近江妙蓮活用プロジェクト	学区として、四季を通じて花や川辺の風景、自然が楽しめる地域づくりに取り組みます。 ・交流ツアー等の実施等 ソフト 地域 ・関連資料(古文書等)の管理体制や観光客受入体制の改善点など検討 ソフト 地域 ・学習会の実施 ソフト 地域 ・河川敷等を活用した花壇づくりや植栽の実施 ソフト+ハード 地域+行政 ・野洲川河川敷のウォーキングルートの整備 ハード 行政 (再掲) ・草花や樹木植樹帯(野洲川水辺空間)の整備 ハード 行政
C. 河西の「身近な魅力」情報発信プロジェクト	地域への関心を高めるため、身近な魅力をまとめたマップを作成し地域の人々に情報発信します。 ・ウォーキングルート、サイクリングルートの設定 ソフト 地域 ・歴史自然の紹介マップづくり ソフト 地域 ・情報発信の具体策を検討 ソフト 地域
D. 河西のみんなで「つながる」プロジェクト	健康づくりイベントや収穫祭、音楽イベントなど、地域内の自治会とも連携を図りながら地域の人々同士の交流を推進します。 ・関連イベントなどの実施 ソフト 地域
E. 健やか・安心・快適な生活環境創出プロジェクト	企業や事業者の力を活用した高齢者の支援やホテルの住める里川等の環境づくりについて研究・検討します。 ・支援の具体策等の確立 ソフト 地域 ・緑地や公園、水辺の環境づくり ソフト 地域 ・野洲川河川敷(北河原公園)の整備 ハード 行政
全 般 行政	地域と行政の協働のもと、プラン(プロジェクト)の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組みます。 ・地区会館とともに連携した支援(調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援(まずは既存制度を活用)) ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘案し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有(隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進)

速野学区

まるごと活性化プラン



速野学区はこんなまちです

■位置

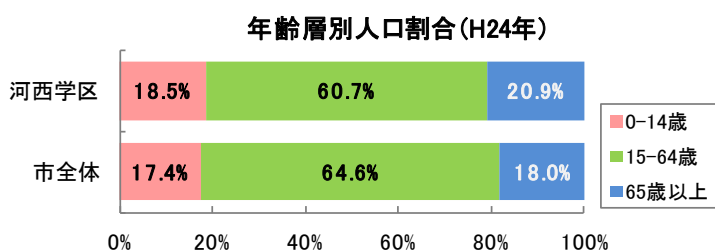
- 速野学区は、本市の西部に位置し、学区の西側は約9kmにわたって琵琶湖に接しています。
- レインボーロード（琵琶湖大橋取付道路）の沿線は市街化区域であり、宅地開発が進むとともに、美術館、公園、ホテル、ゴルフ場などが立ち並ぶ観光リゾート地となっています。内陸部は市街化調整区域であり、田園地帯の中に古くからの集落が点在しています。

■成り立ち

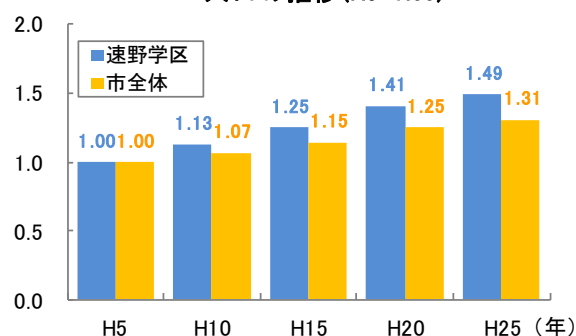
- 古くから、旧野洲川などの豊富な水資源に支えられた農業地域であり、また琵琶湖岸では伝統的漁法である魰（えり）漁をはじめとした漁業が盛んでした。
- 昭和39年に琵琶湖大橋が開通し、市の中心部から遠く離れたのどかな田園地帯であった速野学区は、本市の北の玄関口という新たな顔を持つようになり、人口の増加、宅地開発の進展、大規模小売店やリゾート・レクリエーション施設などの立地によって、急速な発展を遂げました。

■人の動き

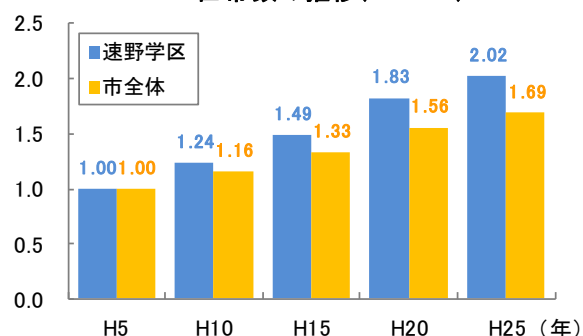
- 人口は12,623人（平成25年）で、市全体の16%を占めます。20年前に比べて約1.5倍に増えており、市全体を上回る高い増加率を示しています。
- 年齢別にみると、0～14歳が約18%、65歳以上は約17%であり、市全体の構成比とほぼ同様な状況です。
- 1世帯あたりの人口は2.8人で、20年前の3.8人から1.0人減少し、核家族化や夫婦ふたり暮らし世帯、単身世帯が増えていることを物語っています。
- ただし、人口が増加しているのは主に市街化区域であり、市街化調整区域では人口の減少、少子高齢化が進んでいます。



人口の推移(H5=1.00)



世帯数の推移(H5=1.00)



地域のたからもの

速野学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■人とひとのつながりが強い地域です

- 内陸部の古くからの集落では、おすそ分けの習慣が残るなど、お互いの顔が見える近所づきあいが根付いています。
- 転入者が多く歴史の浅い新興住宅地でも、夏祭りや一斉清掃等の自治会あがりの行事により、地域の人々同士のつながりを生み出しています。
- 「学区民の集い」をはじめとした祭りやソフトボール大会等イベントの開催、日常的な子育て支援活動などを通じて、新旧住民の間の交流も強まりつつあります。

学区民の集い等の写真

○○○○○○○○○○

■歴史を感じさせる史跡や伝統行事が残っています

- 己爾乃神社（こじのじんじゃ）、樹下神社、福林寺、観音寺などの由緒ある神社仏閣、左義長（さぎちょう）、菜まき盆[※]、たらい神輿[※]等の祭りなど、歴史にまつわる様々な資源や伝統行事が残されています。
- 旧野洲川の伏流水など、昔から地域の人々と水とのつながりが強い地域であることから、井戸、出湯[※]、竹管簡易水道、旧木浜港等、水にまつわる生活遺産を今でもみることができます。

旧木浜港などの写真

○○○○○○○○○○

※菜まき盆：己爾乃神社で9月に行われる祭り。豊穣に感謝し粗菜類の種をまく。
※たらい神輿：毎年5/5に樹下神社にて。お満さん伝説にちなみ、たらいにお満さんを乗せて町内を担ぎ歩く。
※出湯：野洲川の改修前、旧集落の中で伏流水が湧出していた場所。

■豊かな自然を活かした住みやすい環境が形成されています

- 旧野洲川河川敷や琵琶湖岸には様々な動植物が生息し、琵琶湖、木浜内湖、法竜川、大川、新川等の水辺にも自然が残されています。
- 素のままの自然環境や、これらの環境を活かして整備された地球市民の森等の公園などが、潤いとやすらぎの空間を形成しています。
- 湖岸に近い新興住宅地では、花に彩られ美しく整った町並みが形成されています。

地球市民の森またはハマヒルガオ群落の写真

○○○○○○○○○○

■速野ならではの産業、文化、施設があります

- 豊富な河川水を活用した農業や魩漁をはじめとする漁業など、多彩な第一次産業が地域を支え、川魚料理等の伝統的食文化や地域ブランドであるモリヤマメロンなどを生み出してきました。
- 琵琶湖大橋、レインボーロード、湖岸道路が結節する県内でも重要な交通の要衝であり、湖岸に近い地域では、美術館や公園やゴルフ場等地域の人々も来訪者も楽しめる施設が多く立地し、リゾート・レクリエーションエリアとなっています。

魩または琵琶湖大橋の写真

○○○○○○○○○○

現在のまちの課題

一方で、速野学区には、新旧地域の人々の混在という大きな流れを下敷きにした、様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していく必要があります。

■人口の増える地域と減少傾向の地域での地域差が広がっています

- 新興の住宅地では人口が増えているものの昼間は高齢者が多く、防災・防犯上の不安があります。
- 旧集落では少子高齢化が進み、農業の後継者確保や地域行事の継承が難しくなっています。
- 新旧地域に共通して、世代間の交流機会の不足、地域への関心や帰属意識が希薄化しています。

■学区運営、自治会運営における世代交代が停滞しています

- 学区や自治会の役員にかかる負担が大きくなっています。
- 役員世代交代が停滞しており、新たなリーダーの育成、若者や女性の参画の促進が必要です。

■末永く安心・安全に暮らすための生活基盤が十分ではありません

- 学区レベルでの防災訓練の実施や避難所の確保など、地域防災への取り組みが必要です。
- 公共交通の利便性が低く、車を運転できない高齢者の通院などが問題となってきています。
- 狭隘な生活道路を抜け道として利用する車が多く、交通事故の危険性が高くなっています。

■北部市街地、観光リゾート地にふさわしい施設が必要です

- 地域内の文化・教育系また、図書館等の文化施設へも遠い位置にあります。
- 琵琶湖大橋や湖周道路を行き交う車や人々が立ち寄ってくれるような、観光リゾート地にふさわしい集客施設が必要です。

■恵まれた自然・景観・水環境があるのに活かせていません

- 地球市民の森は雑草が生い茂り、不法投棄も増加するなど、管理が行き届いていません。
- 琵琶湖、木浜内湖、法竜川、大川等の豊富な水辺に触れあえる親水性の高い環境が必要です。
- 湖岸のハマヒルガオ群落やなぎさ公園の砂浜などの継続的な保全が必要です。

■地域への愛着や誇りが醸成されにくいのが現状です

- それぞれの自治会で祭りやイベントはありますが、学区全体を挙げてのイベントは多くはありません。
- 地域の人々が誇りに思い、郷土愛が醸成される取り組みや資源が必要です。

速野学区活性化の基本方向

速野学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、おおよそ5年先のめざすべき速野学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取り組みの方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

まちづくりのテーマ

受け継いできた自然と未来を見つめる人が主役のまち
～守山の北玄関 エコミュージアム（仮称）・はやの～

速野学区には、広大な学区域に自然、水、歴史などに彩られた多様なたからものが点在し、地域住民の生活に溶け込みながら守られてきました。また、このような環境で育まれた第一次産業（農業、漁業）を通して、人と人、人と地域のつながりが醸成されてきました。琵琶湖大橋の開通以降は、本市の北の玄関として急速に発展するとともに、新旧の住民が一体となって他の学区に先駆けた様々な取り組みを行い、その気風は今なお地域住民の中に息づいています。

私たち速野学区民は、守山の北玄関にふさわしいもてなしの心を胸に、先人たちの進取の気風を受け継ぎ、地域の恵まれた環境を“エコミュージアム（仮称）※”として後世まで大切にしながら、未永く活き活きと暮らせる速野のまちづくりをめざしていきます。

※地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式を含めた環境を、住民の参加により持続的な方法で保全し活用していくこと。

<取り組みの方針>

- 【方針1】 多世代が連携し速野ならではの多様性を活かしたまちづくり
- 【方針2】 子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らせるまちづくり
- 【方針3】 水辺の自然環境を活かした癒しと潤いのあるまちづくり
- 【方針4】 地域の伝統・産業を大切にするまちづくり

<まちづくりのプロジェクト>

- 守山の北の玄関おもてなしプロジェクト
- 速野まるごとエコミュージアム（仮称）プロジェクト
- びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト
- 大川周辺の自然環境保全＆環境学習推進プロジェクト
- いにしえの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト
- みんなで考えよう速野の未来プロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取り組み方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

※ **地域**とは、学区や自治会の住民、市民活動団体のこと。

A 守山の北の玄関おもてなしプロジェクト

レインボーロード（琵琶湖大橋取付道路）と湖岸道路が交差する、湖南と湖西・湖東地域の重要な交通結節点という地の利を活かし、本市の北の玄関口として、また県内外の様々な情報・物・人が集まる拠点として、行き交う車や人々が足を止めてくれるような魅力を創出します。

取り組み1 幹線道路沿いに情報発信拠点を整備（道の駅など）

- 「ようこそ守山へ」のアーチ看板など「守山の北の玄関」をアピールするシンボルづくり **ハード** **行政**
- 「おうみんち」のような地元の農産品の生産者が集える場の設置 **ハード** **行政**
- 本市、速野学区だけでなく、近江全体の特産品や地域情報を集めて販売、発信 **ソフト** **地域**

取り組み2 速野の人々が本市を代表する情報発信の担い手に

- 情報発信拠点において、地域の人々が本市の情報発信の担い手として、地域の歴史や産業や観光資源（自然、景観、歴史資源など）の情報を発信 **ソフト** **地域**

B 速野まるごとエコミュージアム（仮称）プロジェクト

恵まれた自然、景観、水環境という地域の魅力に一層の磨きをかけ、まちづくりに活用していくため、地域内に点在する地球市民の森、琵琶湖、木浜内湖、大川、法竜川、旧集落や農地を流れる用水路、公園等の個性的な地域資源から、伝統的な生活文化までの多彩なたからものをネットワークして、速野学区全体でエコミュージアム（仮称）の形成をめざします。

取り組み1 速野エコミュージアム（仮称）マップ・パンフレットの作成

- 速野に点在する様々な河川、湖、水辺空間、自然等資源の中から、紹介するポイントを地域の人々によって選定 **ソフト** **地域**
- 季節ごとの見どころなど特徴を示したエコミュージアム（仮称）マップおよびパンフレットの作成 **ソフト** **地域**

取り組み2 速野エコミュージアム（仮称）回遊ルートの形成

- 速野学区に広がる水辺空間を回遊できる遊歩道、サイクリングロード等の整備 **ハード** **行政**
- 「四季の速野めぐり」など、テーマを定めたルートの設定 **ソフト** **地域**
- 統一感のある案内標識や説明看板の整備 **ハード** **行政**

取り組み3 環境学習を指導、実践する地域の組織、人材づくり

- 河川、湖、公園などで環境学習を指導するインストラクターやガイドを配置 **ソフト** **地域**
- 各自治会などからの人材発掘や人材づくりを意識 **ソフト** **地域**
- 地域の子どもたちによる「エコレンジャー」の結成と、高齢者といっしょになった清掃や草刈り等の保全活動の取り組み **ソフト** **地域**

C びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト

びわこ地球市民の森の恵まれた自然や優れた景観などを活かし、地域の人々が日常の楽しみややすらぎを享受し、住民間相互の交流を図る場として活用するとともに、学区外からの集客を目的としたイベントを開催し、にぎわいや活力を生み出します。

取り組み1 地域の人々の日常的な楽しみと安らぎの場づくり

- 美崎公園、なぎさ公園まで連続する遊歩道、ジョギングコース、サイクリングロードの整備 **ハード** **行政**
- 堤防沿いに桜並木を整備 **ハード** **行政**
- 流水の確保、水質の向上、親水景観の整備、清掃の徹底によるやすらぎ環境の整備 **ハード** **行政**

取り組み2 地域の人々の相互交流の場づくり

- 学区民の集い、学区民スポーツ大会など、地域内交流、世代間交流を目的とした定例行事を地球市民の森で開催 **ソフト** **地域**
- 雑草の手入れや管理等の環境保全に地域の人々が参画する仕組みをつくり、協働の機会を創出 **ソフト** **地域**
- ソフトボール、サッカーなど球技を楽しめるグラウンドの整備 **ハード** **行政**

取り組み3 他地域からの来訪者を呼び込むイベント開催

- ソーラン、マラソン大会、ウォークラリー大会、音楽祭等、年間を通じた集客イベントの開催 **ソフト** **地域**
- グランドゴルフコースを、国際的な大会を開催できるような名門コースとして整備することを検討 **ハード** **行政**

D 大川周辺の自然環境保全&環境学習推進プロジェクト

旧野洲川の豊かな自然と湖周道路に近い立地を活かし、大川と周辺の自然環境を中心に琵琶湖（おもに琵琶湖大橋以北）や美崎公園、なぎさ公園などもネットワークさせ、地域の人々や来訪者にやすらぎとうるおいを与える空間を創出するとともに、環境学習の場として有効に活用します。

取り組み1 大川の水質改善と周辺の自然環境改善

- 水草の除去やヘドロの清掃などによる水質改善と、多様な生物が生息できるきれいな水の復活 **ソフト** **地域**
- 川岸の雑草除去や不法投棄物等の撤去により、悪臭のない快適な沿岸環境の整備 **ハード** **地域+行政**

取り組み2 大川と周辺の自然を利用した環境学習プログラムの作成

- 大川とその周辺に生息する淡水生物、野鳥、昆虫、植物等を活用した環境学習の場の整備、環境マップの作成、回遊歩道や木道の整備など **ソフト+ハード** **地域+行政**
- 美崎公園と連携した環境学習のプログラムづくり **ソフト** **地域**

取り組み3 大川と周辺の花のネットワーク形成

- ハマヒルガオ、ひまわり、菜の花、コスモスや、その他の希少な草花など、大川から琵琶湖にかけて咲く草花を紹介するマップの作成 **ソフト** **地域**
- 花畑の手入れや周辺の清掃、草刈りなど、地域の人々による保全活動 **ソフト** **地域**

E いにしへの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト

神社仏閣、史跡、言い伝えなど、地域の歴史を語るたからものを、地域の人々の手によって再発見・再整理し、その魅力や歴史的価値を地域内外の人により良く知ってもらおうとともに、地域の人々が誇りをもって、歴史・伝統・文化を次代に継承する仕組みをつくりま

取り組み1 歴史的たからものの再発見&情報発信

- 神社仏閣や史跡などに関する情報を地域の人々自身が収集・整理 **ソフト** **地域**
- 歴史回遊マップ・パンフレットの作成、統一感のある案内標識や説明看板の設置 **ソフト+ハード** **地域**
- これらを活用した速野の歴史探訪プログラムの作成 **ソフト** **地域**

取り組み2 歴史の語り部の発掘・育成と活躍の場の創出

- 郷土に詳しい地域の人々を速野の歴史の語り部（歴史ガイド）に育成 **ソフト** **地域**
- 語り部が地域の行事や学校教育、地区外からの来訪者に対して活躍できる場づくり **ソフト** **地域**

取り組み3 地域の歴史を地域の人々が学び伝える環境づくり

- 親子で楽しみながら地元の歴史を学べるスタンプラリーやウォークラリー等の開催 **ソフト** **地域**

F みんなで考えよう速野の未来プロジェクト

少子高齢化が進む旧集落と人口増加が続く新興住宅地の住民意識の差、世代間交流の希薄化、自然環境の保全、安心・安全の確保など、地域の様々な課題を改善するため、あらゆる世代や立場の地域の人々が課題を共有し中長期的な速野のまちづくりビジョンをみんなで考える基盤をつ

取り組み1 まちづくり組織の見直しと次代のリーダー育成

- 生涯学習などに偏りつつある既存のまちづくり組織の状況を、あらゆる世代や立場の人々が参加し将来ビジョンを議論できる組織に再編 **ソフト** **地域**
- 次代を担う若者の中から、将来のまちづくりを進める上でのリーダーとなる人材を発掘し育てるための仕組みづくり **ソフト** **地域**

取り組み2 先駆の気風を継承しつつみんなで考える将来ビジョン

- 速野の伝統である進取の気風を継承するため、学区や自治会組織の古い部分を見直し、風通しの良い若者や女性も参加しやすい組織に少しずつ改編 **ソフト** **地域**

取り組み3 安全・安心な環境づくりをテーマとしたまちづくり活動

- 自治会・婦人会・老人会等の地域組織と行政、警察、消防等との関係団体との連携・協力体制の充実 **ソフト** **地域**
- 幅広い世代が集まり交通安全上の危険箇所を抽出した「ヒヤリハットマップ」の作成 **ソフト** **地域**

速野学区活性化の実現に向けて

速野学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】 ※ 地域 とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと。
A. 守山の北の玄関おもてなしプロジェクト	地元産品を核とする集客機能の充実を地域の重要な課題として位置づけ、研究や検討を推進します。 ・地域の農産品や魚、食材などの販売可能性の検証と実施(既存の公共施設や商業施設敷地内の利用などの連携を含む) ソフト 地域 ・魅力を創生する地域情報の発信 ソフト 地域
B. 速野まるごとエココミュニティAM（仮称）プロジェクト	速野学区の「豊かな自然」や琵琶湖をはじめとする「美しい景観」を特に意識し、これらを活かし楽しむことができるポイント・ルートづくりに取り組みます。 ・自然や四季を感じられるポイントの選定 ソフト 地域 ・各自治会で水辺空間回遊ルートや四季を体感できる回遊ルートの設定 ソフト 地域 ・散策ルートマップなどの作成(琵琶湖の景観や漁港、水辺などを活用したルート) ソフト 地域 ・地域の人々が一体となった環境保全活動を自治会や地域で開催 ソフト 地域
C. びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト	大川や地球市民の森などを活用し、地域内交流、世代間交流を目的とした定例行事を実施します。 ・学区民のつどい等地域行事を地球市民の森で開催(ウォーキングやマラソン大会などを含む) ソフト 地域 ・地域の人々が雑草の手入れなど環境保全に参画する仕組みづくり ソフト 地域 ・地球市民の森の河川でのせせらぎづくり ハード 行政
D. 大川周辺の自然環境保全&環境学習推進プロジェクト	地域の人々が参画する仕組みをつくり、地元自治会だけではなく学区をあげて美しくする取り組みを展開します。 ・大川活用プロジェクトの推進 ソフト 地域+行政 ・環境保全の取り組み(花の手入れや雑草の管理を含む) ソフト 地域 ・学習会等の開催 ソフト 地域 ・大川の水質改善と周辺の自然環境改善 ハード 行政 ・遊歩道整備 ハード 行政
E. いにしへの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト	それぞれの自治会が開催する行事やイベントの際に、自治会同士が交流する取り組みについても推進し、助け合い支え合いの風土づくりに取り組みます。 ・回遊ルートマップの作成 ソフト 地域 ・地域イベントの際に地域内の人々同士の交流機会を提供 ソフト 地域 ・学区民の集いなどで、ウォークラリー等地域の歴史を学べる機会を提供 ソフト 地域 ・地域資源を紹介するDVDなどの作成 ソフト 地域
F. みんなで考えよう速野の未来プロジェクト	地域の運営体制・方法の見直しを地域の重要な課題と位置づけ、研究や検討を推進します。 ・まちづくり組織の見直し ソフト 地域 ・地域リーダーとなる若手の人材発掘、研修 ソフト 地域 ・学区、自治会の古い運用を改善 ソフト 地域 ・ヒヤリハットマップの作成 ソフト 地域

プロジェクト	<p>まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】</p> <p>※ 地域とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと。</p>
<p>全 般 行政</p>	<p>地域と行政の協働のもと、プラン（プロジェクト）の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区会館とともに連携した支援（調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援（まずは既存制度を活用）） ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘案し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有（隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進）

中洲学区

まるごと活性化プラン

写真



写真



写真

写真

中洲学区はこんなまちです

■位置

- 中洲学区は、市の北部に位置し、のどかな田園風景が広がる自然の豊かな地域です。
- 野洲川の最下流、琵琶湖に注ぎ込むデルタ地域にあり、学区の名前から分かるように、野洲川改修前は北流と南流の狭間に位置していました。現在は学区の中央を野洲川新放水路が流れています。
- 学区全体が市街化調整区域となっています。

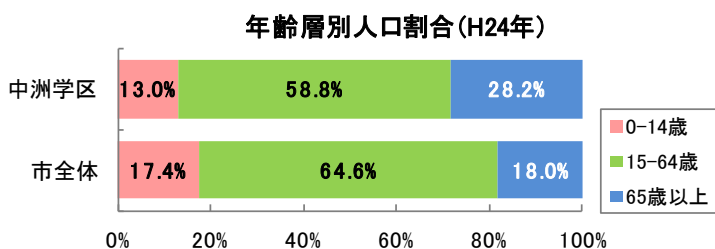
■成り立ち

- 野洲川とともに歴史を刻んできた中洲学区は、幾度となく繰り返される氾濫のなか、古くから人々の営みが面々と続いてきた地域です。服部遺跡（縄文時代～鎌倉時代）からは集落跡や水田跡が見つかったほか、地域には幸津川の水込※を示した石碑や水門といった野洲川にかかわる遺構、氾濫にまつわる伝承等が数多く残されています
- 昭和54年の野洲川新放水路の完成により、ようやく洪水の不安から解放されましたが、改修にあたって集落の移転や農地の提供などが必要で、地域の負担も大きいものでした。

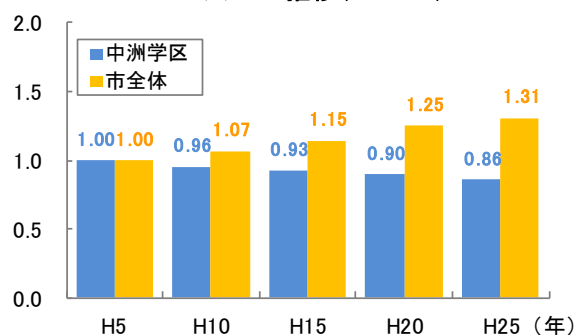
※水込：琵琶湖の洪水は水込みと呼ばれ、湖の水位が上昇して沿岸にあふれだす。

■人の動き

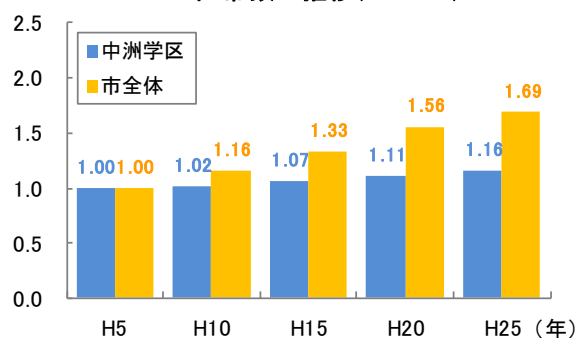
- 人口は2,677人（平成25年）で、市全体の3.4%を占めます。全市人口が増えているのに対して、中洲学区ではこの20年間で約14%減少しています。
- 年齢別にみると、0～14歳が約13%、65歳以上は約28%であり、市全体と比べると少子・高齢化が進んでいます。
- 1世帯あたりの人口は3.3人で、20年間で4.4人から1.1人減少し、核家族化やひとり暮らしの家庭が増えていることを物語っています。



人口の推移(H5=1.00)



世帯数の推移(H5=1.00)



地域のたからもの

中洲学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■地域の人のつながりが強く、人柄が良いまちです

- 中洲の人々は地域への思いや人々とのつながりが強く、組単位、神社仏閣などの助け合い組織・仕組みが残っており、自治会や隣近所、さらにはまち全体での相互扶助が盛んであることが特徴です。
- まちづくりやボランティアにも協力的な人々が多く、イベントの開催、地域の清掃作業、コスモス園や野洲川（新庄）の桜の管理などの活動に加え、「すこやかサロン活動」など高齢者のつどいの場づくりにも熱心です。

たからものの写真等

■地域に伝わる歴史・伝統・文化が色濃く残っています

- 祭りや行事が頻繁に行われ、伝統・文化に誇りを持っているまちです。祭りが地域の人をつなぐ大切な仕組みとなっており、子どもと大人の交流の場としての役割も担っています。これらを通じて伝統の継承が続けられています。
- かつては、田舟、船着き場、農業用水路、湧水を使った炊事等の野洲川の伏流水や湧水などの「水」にまつわる生活、文化、生業が地域に溶け込んでいました。

○○○○○○○○○○

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■お年寄りがとても元気で、静かでのどかな住み良いまちです

- 本市の中でも少子高齢化が進んだ地域ですが、80代でも現役で農作業をされているなど、高齢者が元気なまちです。
- 治安が良く静かでのどかな、とても住み良いまちです。

■田園風景・眺望が素晴らしく、豊かな自然が残されています

- 田畑や果樹園が多く、田植え期、稲刈り期の田園風景、また対岸の比良山、比叡山の眺望が素晴らしく、特に雪をまとった冬の眺望は見事なものです。
- 今でもカブトムシやクワガタが捕れるような豊かな自然が残されている地域です。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

現在のまちの課題

一方で、中洲学区には、様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していくことが必要です。特にかつてのような川に寄り添った暮らしの再生と、高齢化や人口減少を原因とした課題への対応が求められています。

■水と親しみにくくなっています

- 野洲川の河川敷が荒れており、気軽におりて行けない、行くと危ないという状況になっています。川の魚も少なくなっています。
- 野洲川改修により伏流水が途絶え、集落内の川にも水がないため、湧水で野菜を洗う、夏にはスイカを冷やしたり打ち水をするといった水に関わる生活文化が失われつつあります。

■地域の伝統・行事・活動の担い手が少なくなっています

- 青年団への加入や地域の祭りへの若者の参加が減少しています。
- 地域活動スタッフの高齢化、担い手不足により、伝統行事の継承が困難となり、形骸化や消滅が危惧されています。

■まちの活気が不足気味です

- 本市のなかでも、人口減少、少子高齢化の傾向が高い地域です。
- 学区全体が市街化調整区域であり、新たな宅地開発や建て替えに制限があることから、地域の人々が増えにくい状況にあります。
- 地域の農業には、後継者不足や耕作放棄地という課題があります。
- 賑わいにつながる若者が集まる場所やイベントが不足していることも課題です。

■公共交通が不便な地域です

- バスなどの公共交通の利便性が低く、本人や家族が車を運転できない高齢者の通院などが問題となっています。

中洲学区活性化の基本方向

中洲学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、おおよそ5年先のめざすべき中洲学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取り組みの方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

まちづくりのテーマ

野洲川とともに生き、野洲川とともに栄えるまち
心が通い合う「和む」まち

中洲学区は野洲川に寄り添いながら暮らしてきた地域です。頻繁に発生する大水害への対策として新放水路が整備され、安全性が向上しましたが、野洲川や伏流水の恵みを受け豊かに育ってきた生活や文化は失われてきました。

中洲学区にとって野洲川は外せないたからものであり、その恵みを再評価しまちづくりの中心に据えていく必要があります。野洲川に親しみやすい環境を整備し様々な世代の人が集まる場として活かすとともに、地域の川に流れを復活させ、水とともに生きる暮らしを取り戻す取り組みを進めていきます。また、活気ある地域であり続けるために、中洲の主要産業である農業の活性化や、高齢になっても出かけやすい環境づくりについても取り組みを進めていきます。

<取り組みの方針>

- 【方針1】野洲川で各世代が遊び、楽しめるまちづくり
- 【方針2】里中にホタルが飛び豊かな水が流れるまちづくり
- 【方針3】地域の食文化を活かし農業が元気なまちづくり
- 【方針4】いつでも誰でもおでかけしやすいまちづくり

<まちづくりのプロジェクト>

- 安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト
- 農業を元気にするプロジェクト
- みんな集まれ！中洲にぎわい活力創出プロジェクト
- 野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取り組み方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

※ **地域**とは、学区や自治会の住民、市民活動団体のこと。

A 野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト

荒れて危険な状態となり川辺に降りられない野洲川の河川敷を、中洲に住まう様々な世代や学区外から訪れた人が集まり、気軽に水に親しみ、楽しめる場所にするための取り組みを進めます。また、地域の河川に流れを復活させ、昔から育まれてきた水に関わる生活文化や良き風情を次の世代に引き継げるような環境を整備します。

取り組み1 河川敷の公園化推進

- 行政と連携した親水公園の整備計画の検討 **ハード** **地域+行政**
- 整備後の利用方法の計画を策定 **ソフト** **地域+行政**

取り組み2 みんなで担う公園管理の仕組みづくり

- 整備計画の策定と並行した管理体制の検討 **ソフト** **地域**

取り組み3 伏流水の取水方法の検討

- 地域を流れる河川に魚が住める水を再び流す方法について調査を実施 **ハード** **行政**
- 専門家の協力を得ながら行政が計画し、地元の意見と調整 **ソフト** **行政**

取り組み4 河川沿いの景観づくり

- 地域を流れる河川沿いの景観づくりの検討 **ソフト** **地域**

取り組み5 伏流水を活用した事業の実施

- 伏流水復活後の景観づくり等の取り組みを検討、推進 **ソフト** **地域**

B みんな集まれ！中洲にぎわい活力創出プロジェクト

世代間交流の場として、また野洲川に身近に触れる機会をつくるため、野洲川河川敷などを活用したイベントを開催します。中洲学区の人々同士の交流、または他地域の人々が交流する機会を創出することで、中洲学区へ人が集まりにぎわいや活力を生み出します。

取り組み1 既存イベントを活用した地域内外の交流活性化イベントの開催

- 野菜販売、フリーマーケット等の既存イベントの改善・工夫 **ソフト** **地域**
- 地域の人々が参加しやすく、企画・運営に関わりやすくなるような内容の検討（高齢者の支援により若年層を巻き込む努力も大切） **ソフト** **地域**

取り組み2 地区計画の検討・調整区域の見直し

- 定住促進に向けた法制度の検討 **ソフト** **行政**

取り組み3 生活慣行の見直し

- 地域の人々がより住みやすくなる地域社会の生活慣行のあり方の協議・必要な見直し

取り組み4 将来のまちづくりに向けた協議の場への若者の参加促進

- まちづくり活動への若者の参加促進・協議の仕組みの工夫 **ソフト** 地域

取り組み5 住民の安全・安心を確保できる環境整備

- 高齢者・障害者・子ども・子育て家庭などの仲間づくり、居場所づくり **ソフト** 地域
- 関係団体の連携強化による地域の安全・安心創出活動 **ソフト** 地域

C 農業を元気にするプロジェクト

地域の産業を活性化させるためにも、農業が盛んという特色を活かし、中洲ブランドの特産品の開発・販売を行うことで、農業の活性化、地産地消の推進、そして中洲学区のPRに貢献します。また、古い歴史を持つ鮓切り祭りや鮓寿司など水にまつわるユニークな食文化をPRし、観光などへの活用を進めます。

取り組み1 中洲ブランド特産品の開発

- 地域ブランドである「守山メロン」などに続くブランド作物の育成の推進 **ソフト** 地域
- 加工所でつくられる農作物や水産物の製品化 **ソフト** 地域
- 産地（中洲）を明示した特産品の売り込みで地域をアピール **ソフト** 地域

取り組み2 加工所、道の駅、観光農園の整備

- 交流販売拠点としての「フルーツランド」の機能充実、観光農園の整備 **ハード** 行政
- 販売の場での雇用創出 **ハード** 行政

取り組み3 「新たな担い手」活用の推進

- 遊休農地の集約による「新たな担い手」を活用した農業振興の推進 **ソフト** 行政

取り組み4 体験型農業・レンタル畑・イベント・情報発信活動

- 本市が都会から近い特性を活かし、体験型農業やレンタル畑事業、イベント開催を推進 **ハード** 地域+行政

取り組み5 地域農業の情報発信**（鮓切り祭り、鮓寿司に代表される伝統「食文化」の継承と情報発信）**

- 行政や観光協会と連携したホームページなどを活用した、「ふなずし」の外部情報発信 **ソフト** 地域
- 遊休農地を借りてメロンを生産している事例やイベントの紹介など情報発信の推進 **ソフト** 地域
- 地域の農産物、水産物を活かした特産物の開発、販売、PR **ソフト** 地域

D 安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト

安心して暮らせるまちをつくるため、行政と地域の人々が協働して誰もが利用しやすい公共交通の実現に向けて取り組みます。他地域からの来訪客の利用促進をめざし、ピクニック等の施設への公共交通による利便性向上と施設の魅力向上を進めます。

取り組み1 ふれあい交通の見直し・モーリーカーの活用

- 地域ボランティアによる「ふれあい交通」を有償サービスとして位置づけるなど、課題整理と見直しを検討 **ソフト** **地域**
- オンデマンドタクシー「モーリーカー」のさらなる有効活用や改善策の検討 **ソフト** **地域+行政**

取り組み2 地域の力を活用した公共交通

- 地域内資源を活用した、地域で担える公共交通の検討 **ソフト** **地域**
- 公共交通利用で店舗で割引が受けられる等、店舗と連携した利用促進策を検討 **ソフト** **地域+行政**

取り組み3 ビックレイク等集客施設への公共交通による交通アクセス利便性向上

- ビックレイク等の集客施設へ公共交通によるアクセス利便性を向上 **ハード** **行政**

取り組み4 ビックレイクを活用し中洲学区の特産品を販売

- スポーツ大会等の開催時に特産品を販売 **ソフト** **地域**
- スポーツ目的での訪問者向けに農家民宿を整備し、中洲の食文化や歴史を情報発信 **ソフト** **地域**

中洲学区活性化の実現に向けて

中洲学区の活性化に向けて、プロジェクトの数多い取り組みの中から、まずはじめに、概ね5年をかけて、進めていくもの、実行の中心になる主体などを明確にし、これらを優先して取り組んでいきます。

プロジェクト	まずはじめに進めていく取り組み 【主な取り組み主体】 ※ 地域 とは、学区や自治会の住民、市民活動団体等のこと。
A. 野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト	中洲小学校横の野洲川河川敷を活用した誰もが野洲川の自然に親しめる場所づくりや、伏流水の取水等について、行政、有識者と連携して研究・検討を進めます。 ・河川敷の整備計画の検討 ソフト 地域+行政 ・野洲川河川敷公園の整備 ハード 行政 ・伏流水の取水方法検討、実施 ソフト+ハード 地域+行政 ・伏流水を活用した里中河川沿いの景観づくり ソフト 地域
B. みんな集まれ！中洲にぎわい活力創出プロジェクト	新たなイベントを実施するのではなく、まずは、既存のイベントを改善工夫（野菜の販売やフリーマーケット等）することから取り組みます。 ・既存イベント改善策の検討、実施 ソフト 地域
C. 農業を元気にするプロジェクト	フルーツランドやピクニックなどを活用した地元収穫の野菜や加工品の販売、また貸農園や体験型農業についても経験者のノウハウを参考に試行的な実施を進めます。 ・具体策等について検討、実施 ソフト 地域 ・特産品の開発 ソフト 地域 ・交流販売拠点としての「フルーツランド」の機能充実 ハード 行政
D. 安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト	公共交通にかかる問題を地域の重要な課題として位置づけ、地域の力を活用した公共交通などをはじめ、更なる研究、検討を推進します。 ・具体策等について検討、実施 ソフト 地域+行政 ・公共交通利用促進策の検討と推進 ソフト 地域+行政 ・地元店舗へ協力願いなどの協議 ソフト 地域+行政
全 般 行政	地域と行政の協働のもと、プラン（プロジェクト）の具現化に向けて全庁的な支援を行い、順次取り組みます。 ・地区会館とともに連携した支援（調整、情報提供、相談、話し合いの進行支援、経費支援（まずは既存制度を活用）） ・地域の取り組み状況や財政状況などを勘案し、必要に応じて順次担当部署にて事業化 ・進行管理に努め、地域や市の状況を共有することで課題や対応策を共有（隣接する地域や市域で共通するものについては、連携して実施を促進）

(プロジェクト図)

2. 市域を「つなぐ」守山まるごと活性化

学区ごとの個性をベースにした学区別プランを全般的な視点で眺めてみると、各学区に共通するものが見えてきました。

ひとつは、地域の人々が大切にしているものです。どの学区でも、「水と緑」、「伝統」、「人」、この3つのキーワードが登場してきます。

水と緑

水辺やホタル、草木や田園の風景と営み など

伝 統

地域の歴史資源や祭り、営みの記憶、ゆかりのある偉人 など

ひ と

地域を良くしたいと考え行動する人、人と人のつながり など

もうひとつは、活性化の取り組みです。他の学区と共通する取り組みについては学区をまたいで、また市域全体の課題として取り組むことも必要だと考えていることです。

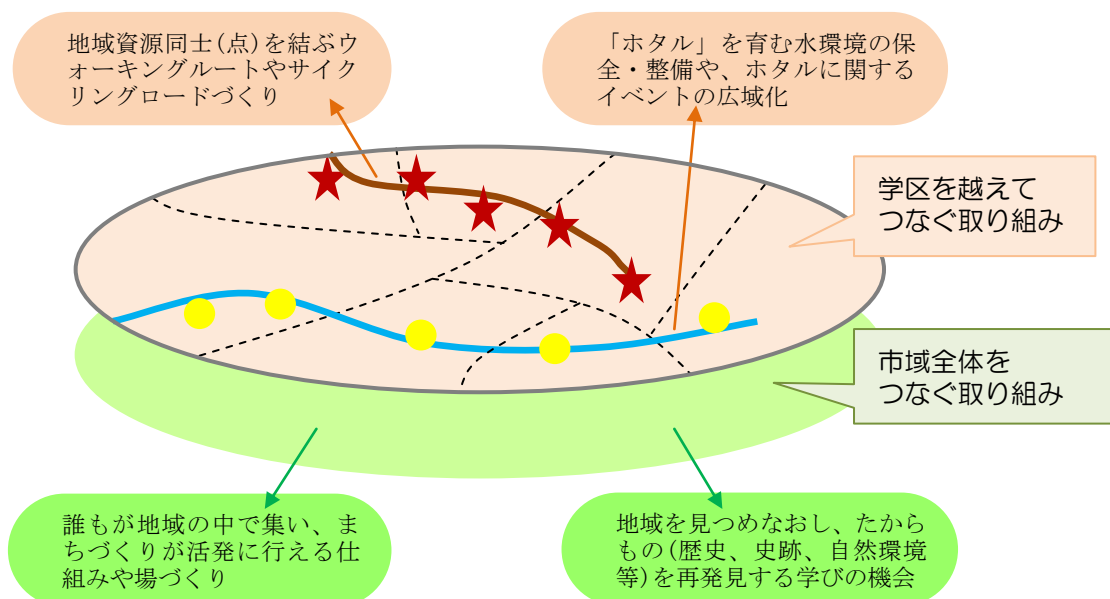
関係他学区と

道や川に沿った取り組み、大規模な祭りの活用 など

守山市全体で

地域や個人が活性化に取り組むための仕組み、情報の提供 など

このため、学区ごとに取り組んでいくことを基本にしなが、さらに学区同士や市域全体を「つなぐ」取り組みについても積極的に推し進めていきます。ルートづくり、推進の仕組みづくりなどにより、点である地域資源を線で結び面に広げ、学区の個性を活かしなが、守山市全体の魅力を高め、双方の活性化を図ることをめざしていきます。



第4章 計画の実現に向けて

地域・市が協働したプロジェクトの実現

1. 各学区での推進方向

この計画に示したプロジェクトは、地域みなさんが考え、アイデアを出し合ってつくりあげたものです。プロジェクトの実現については、地域が主体となり市と連携して進めていくことが基本となります。

(1) 取り組みの体制づくり

プロジェクトの推進体制は、自治会や活動実績のあるまちづくり団体・個人を活かしながら、動き出しやすく無駄の少ない組織を構築していくことが重要です。

個々のプロジェクトを具体化することと計画全体を進めることでは、関係する団体・人や検討する内容も異なります。それぞれの役割を考慮しながら、自治会などの既存組織の枠を広げたり、新たに組織を立ち上げるなど、柔軟に検討して実現します。

幅広い地域の人々や団体に参加してもらうことと、その中からまちづくりの担い手を育てていくことをねらい、取り組みの内容や活動状況についての情報の提供、関連する学習や体験の機会づくり、気軽に参加しやすい体制づくりなどに配慮します。

(2) 優先事業の検討と順次実施

計画に示した多数のプロジェクトを同時に進めることは難しいため、その効果や実現のしやすさを見極め、優先順位を決めて取り組んでいくことが求められます。

「まずはじめに進めていく取り組み」にあげたものについて、実施すべき内容と成果のイメージを地域で共有し、どういう手順でどのような役割分担で取り組んでいくのかを検討します。

※「まずはじめに進めていく取り組み」は、計画策定の段階で想定したものであり、地域での今後の検討や取り組みの進み具合により、優先順位や内容が変わる可能性があります

きっかけとして、すでに取り組みの一部が始まっているもの、関連する行政の事業が計画されたり実施されているもの、行政からの経費支援が見込めるものなど、実現性の高い取り組みを活かしていきます。

(3) 進捗状況の確認と見直し

プロジェクトを確実にまた効果的に実現させるために、取り組みの進捗状況や成果をチェックし、その結果を反映して見直していくという考え方で、進めていきます。

プロジェクト及び学区の計画全体について、定期的に関係者が集まって進捗具合を確認し、次のステップの進め方を検討する場を設置します。

進捗状況について地域の住民や団体へお知らせするとともに、進め方などへの意見を聞く機会を設けていきます。

2. 市による取り組みの推進支援

本市は、地域と行政が協働してプランの実現を図ることができるよう、地域の自主性・自発性を大切にし、プロジェクトの検討から実施までの各段階で積極的・継続的に支援を行います。

(1) 支援体制

① 地区会館

地区会館は、プロジェクトの検討や具体的な取り組みを進める際の相談役として、また地域と他の学区や行政等をつなぐ窓口として、地域での取り組みを支援します。

【主な支援内容】

- プロジェクト実施主体の立ち上げや活動の後押し
- 地域と行政各部署との連絡調整 など

② 市役所担当部署

市役所は、プロジェクトごとに担当する部署を定め、それぞれの役割を活かして具体化の取り組みを支援します。

【主な支援内容】

- 関係団体・機関との連携、実現化課題についての相談・情報提供、調整
- 地域での話し合いの進行補助
- 市庁内各課や国・県、関係機関等との協議・連携 など

(2) 経済的支援

市は、プロジェクトを具体化するために必要な経費を予算の範囲内で支援します。

【主な支援内容】

- 既存の補助金、交付金制度の活用
- 国、県等の補助金の積極的活用
- 具体化に向けた検討経費やイベント等試行のための経費

(3) 関連行政事業の実施

施設の整備など、プロジェクトに関連して行政の事業化が必要なものについては、地域における取り組みの進捗状況や市の財政等を勘案しながら、順次、担当部署において事業化します。また関連する行政計画へも位置づけして、着実な具体化を図ります。

(4) 進捗管理の実施

各学区や市全体での進捗状況や取り組み上の課題などを、学区代表や行政などの関係者が共有する場を定期的に設け、意見交換やお互いの取り組みの調整、対応策の検討等を行います。

【主な検討項目】

- 共通する課題や課題解決策
- 隣接学区間で関連のある取り組みの調整や連携
- 学区を横断して進めるべきプロジェクトの企画・調整
- 計画実現に関する情報発信など全市的な取り組み など